



東海大学望星技術士会 会報

令和4年(2022)年5月 第6号

【目次】

*ご挨拶

東海大学望星技術士会 会長挨拶 川上 哲太郎	1
東海大学生物学部の紹介と望星技術士会への期待 生物学部海洋生物科学科教授 櫻井 泉	2
望星技術士会副会長代表就任の挨拶 笠原 勉	3
§ 1. 令和3年度東海大学望星技術士会の活動概要	5
§ 2. 令和3年度望星技術士会総会報告	7
§ 3. 札幌キャンパス生物学部出前授業開催報告 鳥本 博靖	8
§ 4. 令和3年度建設系学生へのリモート講義開催報告 齋藤 寛, 渡辺 正	10
§ 5. 令和3年度工学部建築学科リモート講義開催報告 永井 和典	14
§ 6. 会員からの便り	
私が技術士試験を通して得たもの 佐々木 隆博	15
私に出来る社会貢献 山本 宣永	16
私が技術士試験を通して得たもの 田原 修一	17
§ 7. 2021年技術士全国大会 創立70周年記念テクニカルツアー参加報告 平野 滋	18
§ 8. 望星技術士会主催の岩佐直人氏講演会の概要 笠原 勉	20
§ 9. 会員インタビュー 神藤顧問とのインタビュー 畑 恭子	21
§ 10. 会員の近況報告	25
§ 11. 新たな技術士CPD制度について 永井 和典	28
§ 12. 東海大学出身者の技術士試験結果の現状 久一 博世	30
§ 13. 望星技術士会新役員の紹介 竹内 聖一 吉田 倫夫	32 33
§ 14. データで見る会員情報 久一 博世	34

*連絡事項

1. 会員の皆様へお願い	34
2. 2021年度寄付金状況報告	35
3. 望星技術士会の今後の予定	35

*編集後記	36
-------	----

東海大学望星技術士会 会長挨拶 ー技術者教育について思うー

新年度を迎えるにあたり、会員の皆様にご挨拶申し上げます。

東海大学望星技術士会は、2015年11月に技術士資格を有する東海大学卒業生の同窓会組織として設立されました。本会の設立ならびに活発な活動にあたっては、会員卒業生の方々の多大なるご努力と熱意ある活動によるところが大きく、その功績は計り知れないものであると感謝申し上げます。

2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症の蔓延は、昨年5波の収束後一時的には落ち着きを見せ、普通の生活に戻れるかと期待しておりましたが、現在(原稿執筆時)、新型コロナウイルスによる第6波襲来の兆候が顕著になってきており、もはや、ウィズ・コロナの時代に突入した感もある今日この頃となっております。

このような厳しい状況の中、会員の方々の献身的なご努力により、2021年度には札幌校舎にて、本会会員による在学生向けの講演会を開催することができましたことは、特筆すべきことと思います。また、湘南校舎にて昨年度に引き続き、工学部土木工学科と建築学科の学生を対象とした、技術士に関するセミナーを3回開催することができました。いずれも、参加者からの積極的な反応にごたえを得られたことは大変うれしく、今後の活動の糧となるものと大いに感じるところです。

さて話は変わりますが、私も数年間ではありますが、建設会社にて土木関係の設計業務に携わったこともあり、多少の実務経験を得ることができました。その後約30年、母校東海大学にて後輩の学生たちに、構造工学や耐震・防災工学などの講義や研究をとおして工学教育に携わってきました。

その工学教育を行う上で私が大切にしていたことは、教科書の理論や知識の教授だけでなく、実務的な技術との関係性を理解させることでした。その理由は、当然のことながら学生たちは卒業後、建設会社やコンサル、行政などの立場

望星技術士会
会長 川上哲太郎
東海大学海洋学部
教授
学長補佐 工学博士



で実務に直面することになり、その実務の中で少なからず大学で学んだことが問われることになると考えていたからです。

学生たちが学んでいる基本的なことと、実務的な技術との関係性の話をする際、数年間の建設会社での実務経験は大いに役立ったことを記憶しています。例えば、高層ビルの大規模基礎工事や、地下鉄などの既設地下構造物を跨ぐ特殊な山留の設計と計測施工、ジオテキスタイル工補強土・盛土の耐震設計、あるいは大型クレーンの転倒事故原因調査など…。

このような実際の実務的な話は、学生たちは興味をもって聞いてくれていましたし、今学んでいることが、如何に必要な基礎的な知識や理論であり、実務的な技術もその基礎の上に成り立っているということを理解してくれたと思っています。さらに、将来自分も技術者になるのだという意識を、漠然としたものかもしれませんが、もってくれたと期待しています。

そして卒業後、それぞれの進路において、様々な実務経験を積み、その知識と技術に研鑽を重ね、その結果として技術士資格を取得された皆様方が、今度は講師となり、在学生に対して実務的な技術や技術士の重要性について講義されていることは、大変有意義であり学生は恵まれた環境にあるといえます。まさに、本会会員の皆様は、母校の技術者教育の重要な一翼を担っているといって過言ではありません。

そして本会の活動が、在学生及び本学卒業の技術者の今後の飛躍の支えとなることを祈念し、新年度にあたってのご挨拶とさせていただきます。

東海大学生物学部の紹介と望星技術士会への期待

東海大学生物学部海洋生物科学科の櫻井と申します。私自身は東海大学の卒業生ではありませんが、前職の北海道立水産試験場在職中に技術士を取得し、現職ではキャリア教育の中で技術職、とりわけ建設・環境コンサルタントを目指す学生に技術士取得の重要性を説いてきた関係もあり、笠原副会長様のお声掛けもあって、令和3年度より望星技術士会に入会させていただきました。今後とも本学の教育・運営に際しまして、ご指導・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

早速ですが、私の所属する東海大学生物学部を紹介させていただきます。生物学部は1988年4月に札幌市南区南沢に設置された北海道東海大学工学部を前身とし、2008年4月の東海大学との統合による生物理工学部への改組を経て、2012年4月に開設された学部です。本学部は生物学科と海洋生物科学科の2学科で構成され、それぞれ陸と海の生物を学修の対象とすることを特徴としています。また、カリキュラム上の特徴として、生物学科は生命科学系と自然生態系、海洋生物科学科は水産科学系と環境生態系の科目構成となっており、両学科とも基礎科学的科目と応用技術的科目を配置することにより、生物学に関する専門知識の修得から実学分野における応用能力の涵養へと展開し、専門性ある人材育成を図る内容となっています。入学定員は両学科とも70名（2022年度からは75名）で、主な就職先は食品製造、水産卸、農・漁業協同組合、環境・建設コンサルタント、情報サービス、商社・小売、公務員、水族館、教育関連など広範な業種にわたっています。また、大学院進学者も年々増加する中、2020年4月には生物学部を基礎とする大学院生物学研究科（修士課程）を開設いたしました。本研究科は、生物学の現在や技術者・研究者への道筋、動物学を中心とした分類体系とそれを取り巻く環境および生命現象の数理的アプローチ法を学ぶ基礎系科目の学修により幅広い専門知識の基盤を築いた上で、個々の動物の生

櫻井 泉

(さくらい いずみ)

東海大学生物学部海洋生物科学科教授
技術士（水産部門-水産土木・総合技術監理部門）



理・繁殖機構を学ぶ生命科学系科目や、動物群の分布・行動・進化・動態を学ぶ生態科学系科目の学修により高度な専門知識と応用能力を身につけるカリキュラム構成となっています。これらの学修を通して、生物多様性の保全や生物資源の持続的利用に主体的に取り組める研究者・技術者の育成を目指しています。

このように、生物学部においては、環境・建設コンサルタント業界を目指す学生が毎年少なからず存在する状況ではありますが、残念ながら業界必須の資格である技術士に関しては認知度が低く、第一次試験の受験すら二の足を踏んでいるのが実情です。こうした中、令和3年度の総会に参加させていただいた際に、会員の皆様から技術士による出前授業のご提案をいただきました。そして、昨年11月に笠原副会長を中心とした当会有志の方々に札幌キャンパスへお越しいただき、生物学部生を対象とした出前授業を開催していただきました。当日は30名の学生が集まり、笠原副会長ならびに久一博様から技術士の業務に関するご講演をいただきました。また、講演後の質疑では学生から活発な質問が寄せられ、出前授業は盛会のうちに終了しました。その後の学生からの聞き取りでは、コンサルタント業界において技術士取得が必須となっている現状や資格取得に向けた道のり、そして技術士の仕事と社会的役割について具体的にイメージできたとの感想も寄せられ、生物学部生のキャリア形成に大変有意義な授業であったと教職員一同感謝いたしております。

今後とも生物学部ならびに大学院生物学研究科へのご指導・ご支援をお願い申し上げますとともに、望星技術士会の益々のご発展を祈念しております。

望星技術士会副会長代表就任の挨拶

1. はじめに

この度、副会長代表に就任しました笠原勉です。3年前に退任された神藤副会長から、森さんと私が推薦を受け選任され、森さんが代表で、「静の森、動の笠原」のコンビで活動してきました。森代表とは2年間副会長として共に汗を流してきました。森さんはとても誠実・真面目な人柄で役員からの信望も厚く、望星技術士会立ち上げ功労者の一人です。また、当初から事務局長、副会長代表を務め、学生の資質向上に全身全霊で立ち向かっていました。

森さんと二人で工学部大学院修士パネル発表会や光・画像学科卒研発表に出席し、学生達に直接技術指導した思い出があります。その森さんが昨年突然難病に襲われたため、代役として私が代表に選任され、サポートとして綿貫・庄司さんのお二人にも副会長に就任していただきました。今年度も川上会長と4名の副会長体制で活動を実施しますので、皆様どうぞよろしくをお願いします。

2. 私の経歴

私は1975年に海洋学部海洋工学科を卒業し、環境コンサルタントのいであ(株)に就職し、全国の海域で開発に伴うアセスメント調査を担当し、出張の連続で各地を飛び回りました。また、JICA業務では、シンガポールやケニアに海外遠征した経験があり、現場叩き上げの環境コンサル技術者を自負しています。

専門分野は海域で海藻を育て藻場を形成する自然再生事業が中心で、綿貫副会長や今村幹事、畑幹事とは昔からの仕事仲間でございます。中部国際空港・東京湾・沖縄の各地で様々な藻場を形成させた実績があります。現在は全国水産技術協会という社団法人に勤務し、北海道各地で鉄鋼スラグを活用して、広大なコンブ場を創る事業や、再生したコンブ場でCO₂を削減するブルーカーボンの研究も行い、古希になっても海に潜り最前線で働く喜びを感じています。

私は環境コンサル技術者として41年間働きましたが、30歳半ばを過ぎた頃、無知な自分に気づき「つまずき転んで奈落の底に転落し心が

笠原勉

(かさはらつとむ)

海洋学部海洋工学科 1975 年卒

技術士(水産2部門・環境部門・建設部門)

(一社) 全国水産技術協会



真っ暗な」どん底人生を送りました。苦悩の中に見えた光が「技術士取得」であり、2年間水産の基礎を猛勉強し、藻場造成を専門として技術士の水産部門(増養殖)に合格しました。

落ちこぼれの私に対し会社からは「まさかお前が合格するなんて」と大変皆さんが驚き、祝福と尊敬の目で見られ、少し自信と勇気が湧いてどん底の泥沼から這い上がれました。

私を特別な推薦枠で採用した当時の高橋社長が合格をととても喜び、その期待に応えようと思いい会社で一番多くの資格取得を目指しました。

技術士では新設された環境部門、水産部門(水産土木)、建設部門(建設環境)と合計4部門に合格し、さらに、RCCM5部門、環境カウンセラー2部門、その他、一級港湾潜水士や自然再生士と様々な資格を取得しました。

会社からはこの実績が評価されて資格取得支援部署も兼任することとなり、若手技術者の技術士取得の責任者に指名され、総勢50名以上の社員が合格し喜びを分かち合いました。その秘策は、試験官に理解できる図・挿絵を活用した解りやすい文章の練習、課題に対する解決策を考える対話式添削の繰り返しでした。試験のための指導を介して、人に想いを伝える文章の訓練になり、自分のためにもなった気がします。

技術士資格を活用し管理技術者としてプロポーザル業務も多数受注でき、国交省の局長表彰を6度受賞しました。これらの経験を踏まえて技術士の必要性を、是非東海大学の在學生に伝授し役立てればと考えてます。

3. 望星技術士会の立ち上げ

さて、望星技術士会ですが今年で7年目を迎えます。その設立では大変苦勞されたと聞いております。初代副会長の神藤さん(東海大学初の技術士)が「天下の東海大学に技術士会がないのは

おかしい」の考えが発端とのことです。そこで工学部出身の7名OBが発起人となり、毎月喫茶店に集まり様々な議論を重ねた長い準備期間と、大学との交渉の末、最終的には松前総長に直談判し、鶴の一声で当時の吉田副学長が会長に指名され望星技術士会が産声を上げました。

私は会社の先輩の久一幹事から「会社を代表して初回総会に出席してよ」と強い要請を受けて、訳も分からず参加した経緯があります。現斎藤事務局長から何故か注目され、「幹事の入会や初回会報の原稿依頼」を要請され、現在でも様々な難題を受けその都度大学に出向き、スクランブル発進で活動しています。

吉田初代会長の外見はとても穏和な感じですが、熱い情熱とエネルギーを持ち高い目標を掲げ、その都度的確な助言をされました。「会員を100名集める目標を掲げ、達成すれば200名を目指そう」「総会では50名以上集め会員の交流を深めよう」と、技術士会発展に向けた強烈な言葉をかけられました。その声は役員への励ましや活力となり、皆様の必死な活動や勧誘によって、会員200名超えを達成できました。お会いするたびに一期一会を大切に、精一杯誠意を尽くされ、私にとって貴重な出会いとなりました。

私は知人の海洋学部OBに対して、会の趣旨を説明し会員勧誘の直談判で入会の依頼をしました。「先輩に言われれば断れない」と、昔の海洋学部の縦割り社会に感銘を受けました。久一幹事は自ら多様な情報をかき集め、技術士を取得した東海大学OBに対して、熱い口調と情熱で口説き多数の方々が入会してくれました。私や久一氏の昔ながらの勧誘方法は、時代遅れとの声も聞かれましたが、大多数の方々が賛同し、会員登録され、役員一同大変感謝しています。

4. 今後の活動方針

令和3年度総会では会員から「望星技術士会は学生のことを考えた活動であった欲しい」との意見があり、全くその通りです。在学生に技術士の基礎知識と受験意欲を植え付け、技術者の第一歩として出遅れないような支援が一番重要と考えています。

その活動の一環として出前授業を開始し、令

和元年は海洋学部で「OB技術士と在学生との交流会」と題して、技術士の詳細な解説と卒業後活躍できる業界の紹介を始めて実施しました。

令和2・3年度には湘南校舎の土木工学・建築学科でも同様な授業を開催しました。在学生の多数から建設・建築業界が理解でき、技術士補試験を受験したいと意見を受けています。令和3年度に札幌校舎生物学部で実施した出前授業では、その内容が大学H.Pや新聞で紹介され、「技術士の重要性」がようやく教職員・在学生に認知される報道になりました。

出前授業が軌道に乗り始めた要因は、我々の活動方針を教職員が理解して授業で採用し、在学生を集めてくださったことが大きいです。今後も全国の校舎でこのような活動を、継続的に実施したいと考えています。

5. おわりに

私が環境コンサルタントで楽しく働けたのは、東海大学海洋学部を卒業して就職したおかげと、今になって大学への感謝と恩返しの気持ちが芽生えてきました。会員の中には私と全く同じ気持ちの方々も、多数いることも解かり心が温まりました。

現在東海大学で最も活躍している学部は、体育学部と思います。全国大学有名人スポーツ選手の出身ランキングを見ると、1位早稲田大学548人、2位東海大学542人、3位日本大学433人であり、現状の活躍度で判断すれば直ぐにトップに立つと確信しています。優秀な選手を輩出させたのは、教職員の高い技術と熱い指導の継続であり、このような情報は現在の高校生は把握しているはずで、優秀な監督・コーチに憧れて東海大学に入学し、毎年継続して優秀な選手が育ち卒業後も活躍して大学の知名度を上げ貢献しています。

土木・建築・生物・水産系の学生の資質を向上させるには、望星技術士会による授業や講演での内容が、在学生の役に立ち、やる気を起こさせる活力にする必要があります。今後は会員の力をお借りして大学教職員と連携し、多数の在学生が技術士試験を受験してくれる活動を目指します。

§1. 令和3年度東海大学望星技術士会の活動概要

1. 役員会の開催（10回）

第1回

開催日：令和3年4月24日（土）

場所：リモート会議

出席者：常任幹事5名、幹事5名、計10名

主要議題

- ◆ 令和3年度総会について（Web総会）
- ◆ 会員名簿の公開方法について
- ◆ 会報第5号の進捗報告

第2回

開催日：令和3年5月22日（土）

場所：リモート会議

出席者：常任幹事5名、幹事4名、計9名

主要議題

- ◆ 令和3年度総会について（Web総会）
- ◆ 総会後にリモート懇親会を予定
- ◆ リモート講義について

第3回

開催日：令和3年7月3日（土）

場所：リモート会議

出席者：常任幹事9名、幹事3名、計12名

主要議題

- ◆ 令和3年度総会（Web総会）の反省
- ◆ 公開用会員名簿の作成について
- ◆ 本年度の活動について
- ◆ 大学への技術士第一次試験関連図書等の贈呈について

第4回

開催日：令和3年7月24日（土）

場所：リモート会議

出席者：常任幹事8名、幹事2名、計10名
委任状1名

主要議題

- ◆ 公開用会員名簿の配信方法について
- ◆ 学生へのリモート講義（湘南、札幌）について

◆ 各委員会での活動の推進について

第5回

開催日：令和3年8月28日（土）

場所：リモート会議

出席者：常任幹事9名、幹事3名、計12名
委任状3名、ゲスト1名

主要議題

- ◆ 名簿公開可の74名の名簿を作成する
- ◆ 学生へのリモート講義（湘南）は12月と1月に予定。札幌は11月に予定。
- ◆ CPD義務化に関する情報交換

第6回

開催日：令和3年9月25日（土）

場所：リモート会議

出席者：常任幹事9名、幹事2名、計11名
ゲスト1名

主要議題

- ◆ 教職員名簿の作成について
- ◆ 学生へのリモート講義の準備について
- ◆ リモート講演会の講師を打診
- ◆ 各委員会報告
- ◆ 経費支払いのルールについて

第7回

開催日：令和3年10月23日（土）

場所：リモート会議

出席者：常任幹事8名、幹事2名、計10名
委任状5名

主要議題

- ◆ 10/10に会員名簿配信終了
- ◆ 学生へのリモート講義の準備について
- ◆ リモート講演会を2月に実施で調整中
- ◆ 各委員会報告

第 8 回

開催日：令和 3 年 11 月 27 日(土)

場所：リモート会議

出席者：常任幹事 7 名、幹事 3 名、計 10 名
委任状 1 名

主要議題

- ◆ 札幌キャンパス出前講義の報告
- ◆ 湘南キャンパス（土木、建築）出前講義の準備について
- ◆ リモート講演会（講師；岩佐氏）で決定
- ◆ 役員内規会計管理案について
- ◆ 会報委員会の組織改変、次回会報の準備開始

第 9 回

開催日：令和 3 年 12 月 18 日(土)

場所：リモート会議

出席者：常任幹事 8 名、幹事 4 名、計 12 名
委任状 2 名

主要議題

- ◆ 湘南キャンパス出前講義の最終準備
- ◆ リモート講演会での CPD 準備
- ◆ 総会の開催方法、講演について
- ◆ 会報原稿の依頼について

第 10 回

開催日：令和 4 年 1 月 22 日(土)

場所：リモート会議

出席者：常任幹事 8 名、幹事 4 名、計 12 名
委任状 1 名

主要議題

- ◆ 湘南キャンパス出前講義の報告
- ◆ リモート講演会の最終打ち合わせ
- ◆ 会報原稿の執筆状況報告
- ◆ 会計予算案の検討

第 11 回

開催日：令和 4 年 2 月 26 日(土)

場所：リモート会議

出席者：常任幹事 8 名、幹事 3 名、計 11 名
委任状 1 名

主要議題

- ◆ リモート講演会の開催報告について
- ◆ 会報第 6 号の編集について
- ◆ 総会の準備について
- ◆ 寄付金の使途について総会の準備について
- ◆ 寄付金の使途について

第 12 回

開催日：令和 4 年 3 月 26 日(土)

場所：リモート会議

出席者：常任幹事 8 名、幹事 2 名、計 10 名
ゲスト 1 名

主要議題

- ◆ 2022 年度活動計画案について
- ◆ 予算計画と経費支払規定について
- ◆ 総会の準備について
- ◆ 役員人事案について

§ 2. 令和3年度 望星技術士会総会報告

1. 概要・参加者

令和3年度定期総会は、令和3年6月19日(土)にZoomによるWeb方式にて開催した。参加者は25人(役員含む)、教職員会員3人(川上哲太郎先生、吉田一也先生、前田秀一先生)、ゲスト2人(梶田佳孝先生、櫻井泉先生)の合計30名が参加された。また、事前のWebによる評決、議決権の委任は2人であった。

2. 開催内容

定期総会は以下の内容にて実施された。

1. 開会宣言：笠原副会長による開会宣言。
2. 会長挨拶：川上会長の挨拶。
3. 議長選出：笠原副会長を選任。
4. 総会成立宣言：参加者の承認で、令和3年度東海大学望星技術士会定期総会成立を宣言。
5. 報告事項：「令和2年度 活動報告の件」
6. 審議事項：以下に示す第1～5合議案について、有効評決総数の過半数の承認により、原案通り承認された。

【第1号議案】「令和2年度 会計報告 会計監査報告の件」

【第2号議案】「会則改定の件」

【第3号議案】「令和3年度 役員選任の件」

【第4号議案】「令和3年度 活動計画(案)及び予算計画(案)の件」

【第5号議案】「会員名簿公開の件」

・公開用名簿作成にあたり居住地を都道府県名までに留める考えの会員は、連絡を頂きたい旨案内。

・名簿公開時期：全体で1ヶ月程度の名簿作成の期間の後公開。

・名簿更新：年1回を目標とする。

7. 事務局よりお願い

・「ご寄付のお願い」

・「役員募集」

・事前にWebページに寄せられたご意見を説明。

8. 議長退任

9. 閉会挨拶・閉会宣言

・記念撮影(画像が写っていない方は、撮影時にカメラがオフになっていたようです)



§3. 札幌キャンパス生物学部出前授業 開催報告

1. 出前授業の概要

出前授業は、令和3年11月5日（金）17:10～18:50に東海大学札幌キャンパス（写真1に示すように札幌郊外の高台に位置する）の生物学部学生を対象に行いました。コロナ禍が落ち着いていたので幸いなことに対面方式で出前授業ができました。

OB技術士がその資格の必要性や実際の業務内容を紹介し、技術士（補）取得のきっかけになることを目的に実施しました。講師は望星技術士会副会長代表の笠原勉氏が教壇に立ち、学生30名と札幌キャンパスの教員4名、教員2名、地元OB技術士6名で授業がスタートしました（写真2）。

余談ですが、偶然にも昨年度の札幌キャンパス生物学部の卒業生1名が弊社に入社しており、このタイミングの札幌出前授業に何か不思議な縁を感じました。

2. 授業内容第1部「目指せ学生技術士補と卒業後活躍できる業界」

第1部授業では技術士資格に関しての制度や有用性、実社会での公共事業の入札制度の変遷を解説されました。近年のプロポーザル方式で受注する秘策を語られ、自らが管理技術者として獲得した業務を熱く語られました（図1）。

主な講演内容は①望星技術士会について、②技術士とは何か？③業務受注での入札制度につ

鳥本 博靖

（とりもと ひろやす）

工学部土木工学科 2000年卒
附属第四高校（現・附属札幌高校）卒

技術士（森林部門・建設部門）
防災地質工業株式会社（札幌市）



いて、④技術士の活躍できる業務の紹介、⑤海洋・環境コンサルタント業界の紹介、⑥生物学部で活躍できる就職先についてでした。

私は学生時代に、漠然と資格は必要と考えていながら、実際に必要となる資格や、何を指したらよいかわからなかった事を思い出しました。この授業は学生達にとって卒業後の実社会をイメージするのにとても役に立ったと思いました。

「技術士一次試験に合格すれば、二次試験はどの部門でも受験できるので、生物学部の皆さんは生物工学、水産、環境部門を選択して受験するのが得策」という説明も目からウロコでした。参加した学生達が少しでも技術士資格に興味を持ち、在学中に受験してくれるのではないかと期待できました。



図1 プロポーザル方式の入札：技術士会資料



写真1 真駒内から札幌キャンパス（赤○）を望む



写真2 講師の話に熱心に聞き入る学生たち

3. 授業内容第2部「北海道沿岸の水環境とコンブ場再生技術」

第2部授業では笠原氏が水産土木技術者として実際に行ったコンブ場再生技術業務の紹介でした。

近年北海道の日本海側沿岸では、コンブが枯死して藻場が消滅する磯焼け現象が発生しています。その要因は地球温暖化による海水温の上昇や対馬暖流の勢力増大による貧栄養化、森が育む鉄イオンや栄養分が川を通じて供給が減少したことが一因と考えられています。藻場の再生事業は北海道の増毛町や泊村からの要請により、産学連携により、研究者とともに鉄鋼スラグを利用して実施されました。大規模なコンブ場再生の成果は、水中写真やドローンを使用した航空写真で分かりやすく解説されました。

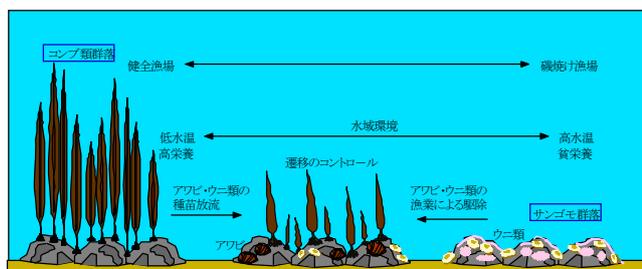


図2 コンブ場での磯焼け要因：笠原氏提供



写真3 増毛町で再生したコンブ場：笠原氏提供

私の専門技術は溪流の上流域に設置する治山ダムの設計業務ですが、近年は遡上する魚類への環境負荷軽減や、森から流出する土砂や栄養分の遮断による生態系への悪影響が懸念されています。その具体的対策として、治山ダムの切り下げによる軽減も検討され、増毛町にある溪流の治山ダム切り下げ業務にも携わったことがあります。これが海を蘇らせる設計だったのかと実感しました。河川環境を考える場合には森・川・海の連続性を考慮し、多自然川づくりを念頭に森から海までの生態系維持が重要と、改めて再

認識し自らも勉強になりました。

4. おわりに

授業中の学生達は、終始真剣な眼差しで講演を聞いていました。普段の学生生活では触れることのない「仕事」や「社会」について、技術士の業務を通じて垣間見ることができたのではないのでしょうか。

授業終了後の質疑応答では、生物学部の学生らしくコンブの生態・磯焼け・鉄イオン等、技術的な質問などが交わされ、在学生の知識向上になったものと思います。

また、後日学生からメールで技術士補を受験する上で、技術士資格の詳細や試験対策の質問を受け、岡山県から駆け付けた会員の久一博世氏が丁寧に対応してくれました。総じて学生達からは、技術士試験に対する興味や、今後の社会生活に対する前向きな姿勢を感じることができました。

私は今回の授業に参加し、OBとして陰ながら、在学生に対して自らの知識や体験を伝え貢献したいと思いました。

今回の授業には東海大学新聞山南慎之介編集長が東京から取材に駆け付けられ、その内容が東海大学のホームページ(下記のアドレス参照)と東海大学新聞2021年12月号に掲載されました。

最後に笠原氏からは、今回の授業を生物学部櫻井泉教授に企画していただき、参加された教職員と在学生に対して、お礼を述べられています。

今後も札幌在中のOBと連携して、毎年継続して出前授業が開催されますよう、また付属札幌高校(大学校舎に隣接)でも出前授業が実現できたらと思っています。

(参考) <https://www.u-tokai.ac.jp/news-campus/50659/>

§ 4. 令和3年度 建設系学生へのリモート講義 開催報告

望星技術士会 齋藤 寛、渡辺 正

1. 日程：

令和3年12月22日(水) [第1回]

令和4年1月12日(水) [第2回]

2. 時間：

17:15～18:55 (5時限目)

3. 場所：

東海大学湘南キャンパス

19号館542号 (土木工学科第2実験室)

4. 参加者：

・東海大学教員：梶田教授、三神教授

・東海大学学生：約80名

・望星技術士会：

[第1回] 笠原氏、平野氏、今村氏、庄司氏、

永井氏、齋藤、渡辺

[第2回] 平野氏、庄司氏、山田氏、齋藤、

5. 目的・概要

本講義は、学生に技術士補取得の有用性を知ってもらい、より多くの学生に技術士補、将来的には技術士を目指して貰うことを目的として実施しており、本年度で2年目の実施となる。開催の経緯は、望星技術士会より大学側へ実施の提案をしたところ、土木工学科の梶田教授より、土木工学科の2年生を対象として、2日間に分けて各コマ、合計2コマ「土木基礎ゼミナール入門ゼミナール2」の講義を行うことのできることを聞き、実施に至っている。

6. 第1回講義

(1) 概要

筆者の渡辺は講義前日に新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者となったため、当日はリモートでの参加となった。

第1回講義の順序及び概要は以下の通り。

【17:15～17:20】

梶田先生より「講義の趣旨」の説明

【17:20～17:30】

望星技術士会齋藤より、「望星技術士会および今回の講義概要について」説明。

【17:30～17:55】

今村氏より、「ゼネコン業界での必要資格および実際に体験した業務(人工湧昇流発生構造物の

開発他)」の説明。

【17:55～18:20】

渡辺より、「建設コンサルタント業界の必要資格と業務の紹介(橋梁詳細設計他)」の説明。

【18:20～18:45】

永井氏より、「建築のお仕事って何するの?(発注形態や企業規模による特徴他)」の説明。

【18:45～18:55】

質疑応答

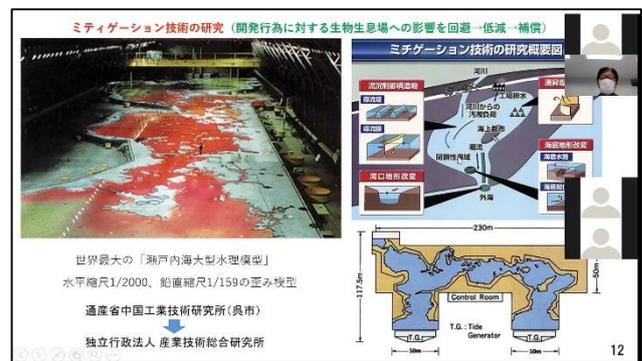


図1. 今村氏の講義画面



図2. 渡辺の講義画面



図3. 永井氏の講義画面

(2) 講義に対する質疑応答

1) IT・DXへの会社での取組み、土木技術者としての働き方などについて教えてください。

今村氏：建設会社では、研究所を設置して対応している。またIT技術により、遠隔で会議や現場確認できる環境を整えつつある。効率化され、オンライン会議が可能であれば移動を削減している。当然として、交通費も削減されることとなる。

渡辺：IT・DXに関わる推進室が社内で組織されている。土木技術者がIT技術を学ぶのではなく、専門企業との共同研究などにより、成果としてIT技術が取り込まれていることを目指している。一方、これからの人材という観点では、今学生でいる若い方々はITにも強くなって頂くことが望ましい。

永井氏：社内にDX推進課が組織されている。現場では、3次元CADを取り入れ始めている。今後は若手の人材確保をするうえでも、IT・DXを推進して仕事の省力化・効率化を図る必要がある。

2) IT会社と土木会社で、専門が異なるなか、どのように仕事をしているのですか。

永井氏：打合せを密にして、お互い学び、補いながら仕事をしている。

3) IT化が進むと不必要となる資格はありますか？

齋藤：技術士には多方面の専門性を総合的にマネジメントする役割もある。AIが発達したとしても、学生の皆さんが働く間は、マネジメントに関わる資格は必要と考える。

4) 2級土木施工管理技士(学科試験)も受験すべきでしょうか。

今村氏：土木施工会社に入社して現場を担当するようになれば受験すべきである。

永井氏：在学中に合格していると就職活動に有利になる可能性がある。

5) 在学中の技術士補取得は難しいですか？

渡辺：技術士補は社会資本整備のあらゆる分野から出題されるため、初めて学ぶ分野は覚えるのが大変だが、過去問題を繰り返し学べば対策は可能である。

三神教授：昨年、在学中に合格した学生がい

る。研究室の大学院生は皆技術士補を保有している。しっかり勉強すれば合格は難しくないと言える。

7. 第2回講義

(1) 概要および講義

今回は、平野技術士と大学院生の山田氏の二人の講師による講義であるが、平野氏は自宅からのリモート参加となった。また、土木工学科の梶田先生が急遽別の会議に出席されることになり、第2実験室では事務局の齋藤と山田氏の2名による対応となった。最初に別室から三神先生による説明で講義開始となった。

【17:15~17:20】

三神先生より第1回目に引き続き「本講義の趣旨」と出席アンケート書込みの説明、望星技術士会事務局齋藤より講師の紹介と講義概要の説明。

【17:20~18:00】

望星技術士会平野講師の講義「技術士を目指そう」(技術士制度及び第一次試験受験に向けて)

- ・はじめに(自己紹介、東海大学望星技術士会)
- ・技術士とは(技術士資格取得のメリット)
- ・技術士制度及び現状
- ・技術士試験の仕組みと現状(第一次試験の内容)
- ・まとめ

【18:00~18:10】

第1回目のアンケートにおける質問への対応。

・海外での活動における語学力について(技術英語はプロジェクトのコーディネーターなどの支援があるので、日常的なコミュニケーション程度でよい)。

・技術士以外で取っておくべき資格(建設部門では、土木施工管理技士、コンクリート診断士、測量士、一級建築士、RCCMなど)。

・プログラミングの知識の必要性:システムエンジニアになるわけではなく、建設関連の専門的な技術者になることが第一なので、word、excel、PowerPointなどが使いこなせることで充分。

・公務員になる場合に技術士の資格は役立つか:公務員の立場から仕事を管理する相手は民間事業者の技術士であるため、対等に話しをすることができるという点で技術士資格取得の意義はある。

・建築と土木の分野の関係性:都市の建設という視点では、建築と土木は切り離して考えることは

できない。どちらかの分野のプロフェッショナルになる中で、機会があれば相互の技術の内容を知っていくことは重要で、その意味で建築士などの資格取得に挑戦し、学ぶということは有意義である。ただし、究めていくことは自分の専門とする技術であることを忘れてはならない。

【18：10～18：40】

大学院山田氏講義「技術士第一次試験体験記」

- ・自己紹介
- ・技術士について
- ・受験の動機とその効果
- ・勉強方法
- ・まとめ



【山田氏の講義の様子】

【18：40～18：45】

望星技術士会事務局齋藤より補足

- ・とにかく第一次試験を受けてみる事が重要。試験会場の様子を知ること、社会人を含めてどんな人が受験に来ているのかを見ることで、自分のポジションを理解し、チャレンジの意欲を高めることができる。
- ・過去問を解いてみることで、自分の実力との関係、課題点を知ることができる。

【18：45～19：00】

質疑応答（チャットなど）

- ・就職担当の先生の対応、山田氏の経験：
学部3年の秋～冬に個別に先生に進路の希望を話す機会がある（民間企業への就職、公務員、大学院への進学など）。本日受講の2年生はちょうど1年後の頃になる。それまでに自分の考えを整理しておくとうい。
- ・技術士の資格を取るために一日何時間位勉強し

たか：

（齋藤の経験）実務経験を積んだ上で、何度か不合格になったので、モチベーションの維持が難しい。仕事が忙しい中で試験の準備をすることは辛かった記憶しかない。何時間勉強するかではなく、試験日が迫るにつれて追い立てられて夜中まで机にかじりついて勉強するという状況だった。第二次試験は合格率が低いので、簡単なことではないのは事実である。

- ・建設部門の技術士の比率が非常に高いということは、社会の要求である。プロフェッショナルの技術者になっていくことは建設業界の中では越えていかななくてはならない成長のプロセスであるといえる。

・平野講師の意見：

勉強時間は人によって違う。どんな試験でも簡単に受かってしまう人が5%位はいると聞いたことがある。反復して覚えなくてはならない人もいるが、一回本を読んだら覚えてしまう人もいる。やはり反復練習は必要である。仕事をしていると夜遅くなったり、家では勉強ができなかったりということもある。そのような時は早朝に勉強をしたこともある。これも辛いことであった。しかし、合格することを想像し、学びを楽しむことが重要。

- ・技術士第一次試験が不合格だった場合などで受験できない期間はあるか：

不合格となったら翌年チャレンジすることになる。注意が必要なのは、試験の際に、名前などの記入の誤り、回答の記載の誤りなどで失格となるケースである。試験会場での緊張もあるので気を付けてほしい。

・山田氏の勉強時間も聞きたい：

特に勉強時間を計っていない。参考書の範囲を決めて勉強した。日によって2～3時間の日もあれば、悩まされた時は10時間以上やっていたこともある。そのような時間を費やせるのは学生の時しかない。仕事をしていては、資格のための勉強時間を取ることはなかなかできないと思う。

- ・（平野講師の助言）受験に向けた勉強を始めてみることで、行動を起こすことが重要。過去問で腕試しでもよい。やる気スイッチを入れること。

- ・（事務局齋藤の助言）会社に入ってから技術士試験の勉強内容に悩みを抱えても、技術士の問題

を教えてくれる環境はないと思った方がいいかもしれない。今、大学で先生に教わる環境があるうちに、積極的に先生に質問を投げかけて、教えていただく。こんな素晴らしい環境があるのだから、活用しない手はない、今がチャンスである。

8. 講義に対する学生からのコメント

(1) 学生からのコメントまとめ

講義に対する学生からのコメント（感想・質問・意見）を表1にまとめた。

第1回講義内容は、主に建設業界内の各分野の紹介や技術士の活用であったことから、「技術士の重要性が分かった」、「各分野の仕事内容が分かった」、「参考になった・ためになった」、そして「技術士一次試験を受験しようと思った」などのコメントが多く見られた。

第2回講義は、技術士受験内容や技術士第一次試験受験体験記といった内容であったことから、「勉強方法・参考書が分かった」が最も多くなった。そして「参考になった・ためになった」、「技術士の資格の重要性が分かった」、「技術士一次試験を受験しようと思った」などのコメントが続いた。

(2) 質問事項への対応

学生からのコメントに技術士資格に関すること、就職活動に関すること、仕事内容のこと、など熱意のあふれた多くの質問も挙がってきた。これらの質問に対しては、講義担当者のみならず本会役員が目を通し全ての質問に回答し、先生を通じて学生に伝えられた。

9. まとめ・感想

今回は2年目の技術士資格についての講義を行った。依然としてコロナ禍にあり、リモートでの実施であったことから、学生の反応が見られず、講師の難しさを覚えた。

質疑応答においては、土木技術だけでなくIT・DXに学生も関心があることが伺え、将来の社会を担う人材が幅広い見識を得ようと積極的に質問して頂けたことは嬉しい反応であった。

今後とも、このような活動を継続し、学生への技術士への認知を深め、技術士補の受験

を促すとともに、将来的に技術士を目指すことに少しでも繋がれば幸いである。

【表1. 学生からのコメントのまとめ】

第1回講義(12/22)	
コメント数	コメント(感想・質問・意見)
24	技術士の資格の重要性が分かった
23	各分野の仕事内容が分かった
19	参考になった・ためになった
15	技術士一次試験を受験しようと思った
13	その他感想・質問
11	就職先を決めるのに役に立った
6	講義ありがとうございました
第2回講義(1/22)	
コメント数	コメント(感想・質問・意見)
28	勉強方法・参考書が分かった
21	参考になった・ためになった
20	技術士の資格の重要性が分かった
20	技術士一次試験を受験しようと思った
15	その他感想・質問
2	講義ありがとうございました

※1名で複数のコメントを記載する人もいるため、出席者とは合わない。

[謝辞]

今回の講義に際しご理解及びご協力を頂きました土木工学科の梶田教授、三神教授に心より感謝申し上げます、報告とします。

§ 5. 工学部建築学科リモート講義 開催報告

はじめに

令和4年1月19日(水) 9:00~10:30に東海大学湘南キャンパスにおいて、工学部建築学科の学生を対象に出前講義を行いました。リモートとリアル併用での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス(オミクロン株)の感染急拡大を受けリアル参加は1名のみ。それ以外の36名はリモート参加となりました。

受講者の1年生に対して、就職を意識させるため建設業界の実態について話をしたい、との依頼を学科長の渡部先生からいただきました。それを受けて、望星技術士会と川本工業の共催という形で建設業界の仕組みや仕事内容を中心に講義をさせていただきました。

併せて、技術士や一級建築士等、建設業に必要な資格についても説明の時間を設けました。講師として永井の他に、建築設備に関する施工管理の実務経験が豊富な、川本工業の高橋氏(東海大学OB)に参加してもらいました。



写真1 講義を行った16号館

講義内容

まずは建設業の仕事内容について、営業、設計、施工管理の各業務について話をしてから、建設業のやりがいや実態について触れました。リモート講義のため、受講者がどこまで理解したか不安でしたが、「建設業界がどのような仕事をしているか知ることができて将来について考えるきっかけとなった」「意匠、構造、設備の分類や、営業、設計の役割がよく分かった」などの感想を聞きホッとしました。建築学科の学生は、8割以上が建物のデザイン(設計)をやった

永井 和典

(ながい かずのり)

工学部建築学科 1984年卒

技術士(衛生工学部門)

川本工業株式会社



くて建築学科を選んだと聞いています。そのため、設計業務に重点を置いた話をしましたが、幅広い分野にも目を向けてもらえたと感じています。実際の施工管理に関する話も参考になったことと思います。



写真2 講義風景

建設業(建築系)では、一級建築士の資格が重要視されています。とはいうものの、より高い次元での仕事に携わるためには、技術士の資格が不可欠となります。今回の講義を通じて技術士資格に興味を持ってもらえたことは、望星技術士会の学生向け普及活動として、とても意義があったと感じています。

講義を終えて

渡部先生からいただいた授業の感想を読ませていただくと、学生からはしっかりしたコメントが多く、前向きな姿勢が目立ちました。社会に出てから大きく羽ばたくことができると確信した次第です。学生の皆さんには、さらなる飛躍のためにも、在学中に技術士の一次試験に挑戦していただきたいと願っています。

最後になりますが、今回の講義に際してご理解とご協力をいただいたすべての皆様に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

§ 6. 会員からの便り

私が技術士試験を通して得たもの

1. その2に続けた事に感謝

その1を掲載頂いてから1年経ちその2に続くことが出来ました。ここに、厚く御礼申し上げます。

2. 大学卒業後に技術士を知る

大学卒業後、放射線取扱主任者試験の合格を持ち就職先の茨城県日立市へ移動。駅の海に近い海岸口から出ると鼻血が出たかと思う香りにびっくりしたが、太平洋の磯の香りを山育ちゆえの勘違いでした。この時点では恥ずかしながら技術士資格がある事すら知りませんでした。

学部時代ラボでの実験経験はあったものの、工場や現地での現場作業は、カルチャーショックでしたが、元々性に合っていたのか楽しい日々でした(現場叩上げの36年の現場経験は貴重な宝物です)。工場や現地での作業に明け暮れていたところ、職場に技術士を目指していた先輩がいたので調べて見ると、1983年当時には原子力部門は無く、類似部門では応用理学部門でしたので、入社早々の慣れない現場作業に忙殺され受験には至りませんでした。

3. 技術士一次試験受験まで

8年間は、原子力発電所の試運転・定期点検や品質保証を担当しました。福島、新潟、福井、島根と原発労働者として、出張三昧の日々を送っていたところ、1990年代に原子力発電制御のデジタル化の動きがあり、ほんの少しだけPCに慣れ親しんでいたことが発端となり、情報制御関係部署に転属され、プロセス計算機等のハードウェア開発を担当することになりました。その後、開発からハードウェア保守に移る際に、里心が湧き、新設保守拠点を宇都宮に設置する計画に参画し、宇都宮サービスステーションを立ち上げ、以後25年に渡り、プロセス計算機や産業用放射線装置のハードウェア保守を担当しました。

その間、管理職登用にあたり技術士一次試験の受験申請を遅れずに申し込みと速達で書類が送られてきました。取り急ぎ申し込み準備を進めていたところ、原子力・放射線部門があるで

佐々木 隆博

(ささき たかひろ)

工学部原子力工学科 1983年卒
技術士(原子力・放射線部門)



はありませんか。迷わず、この部門で受験することにしました。技術者倫理については新たに勉強しましたが、専門科目は何もせず大学時代の習得知識だけで合格しました。

4. 二次試験は現場経験で乗り切る

大学から就職当初までは、自他共に認める原子炉屋でしたが、途中から放射線利用機器の保守業務を担当したこともあり、原子炉部門で受験するも敢え無く撃沈、技術士試験には実務経験が必要であることを痛感し、放射線部門で受験し晴れて合格となりました。

お客先の会社で作業するカスタマーエンジニア職でしたので、お客様に教育して頂いたようなものです。二次試験の面接試験は楽しい技術談義の時間を過ごさせて頂きました。また、望星技術士会にも仲間入りさせて頂きました。

5. 技術士を志す方へ

現場技術一辺倒でも技術士となることができました。日頃の業務を大切にし、より良い技術で業務ができるかを考えることが肝要と思います。

6. 文末言

今回は、技術士取得までのインデックス的な記載となっております。細かなエピソードはページスペースの関係上割愛しました。

(ご要望あれば、その3に展開させて頂ければと思っています。)

私にできる社会貢献

1. 資格取得の経緯

子供のころから物作りが好きだった私は高校で理系に進み、大学は工学系を目指しました。その頃は、建築と土木が全く別の職業とは理解しておらず、とりあえず面白そうな海洋土木工学科に入ったと記憶しています。予想どおり面白い学びや遊び等の忘れられない人生経験を経て、とある建設コンサルタント会社に入社しました。ところが、わずか2ヶ月後に会社が倒産し、“新卒”というカードを無くし、“経験”というスキルを持たないまま再度就職活動に入りました。それから今の職に就くまで、2度目の会社倒産や転職を経験し、気づけば建設関係の資格をいくつも手にしていました。今思えば、志望している業種から振り落とされず、自分を守るために必死でかき集めたカードなんだと思います。手にしても物足りず、次々と自分を守るための資格を取り続けましたが、38歳で取得した技術士の資格から、ようやく資格への執着が終わることとなりました。

2. 仕事に向き合う意識の変化

科学技術分野最高峰の国家資格だからこの執着が終わったのかと言え、単純にそうではなく、仕事の見え方が大きく変わったからだと感じています。たとえるなら、飛んでくる玉を我武者羅に回収して整然と箱に詰めていた作業が、色や大きさ、重さ、質感などに応じて必要とする人に手渡せるようになったと言えます。自分で考えて結論を出し、その成果の正当性を照査し、社会的変化・要請に応じて最適化していく作業は、資格取得に向けた勉強の中で学んだことでした。業務に対する意識に変化が起き、私は今までよりも仕事に自信を持つことができるようになりました。物事の根本的な出発点や大多数の意見等に対して疑問を感じることは誰も経験することだと思います。これに異を唱えるのは勇気が必要で、かつ、客観的で確かな根拠を持つことが大切ですが、その後ろ盾となるものは技術者としての経験と、誰もが認める資格（≒自信）であると思います。

山本 宣永

(やまもとのぶひさ)
海洋学部土木工学科 1999 年卒
技術士（建設部門）
中央復建コンサルタンツ（株）
道路系部門道路第一グループ



3. 日常生活の変化

個人的な趣味ですが、私は自動車に乗ることが好きで、休日はバイクに跨って絶景や名湯を求めて外出することがしばしばです。道路設計を専門として仕事をしている関係で、ついつい自分の携わった道路が計画どおり出来上がっているか、設計に問題が無かったかが気になり、わざわざ足を運ぶこともあります。難題な課題に頭を悩ませた計画においては、無事に現地に整備され、安全・円滑な交通流が確認できると非常に満足するものです。一方、運転中に危険を感じたり、事故の現場やニュースを見ると、携わっていない路線であっても他人事を感じないことがあります。私の母が自動車の交通事故に巻き込まれて命を落としたことも手伝い、公共交通の要である道路が、交通安全上十分な配慮の上に計画されているか、技術者として厳しい目線で見えるようになったと感じます。

4. 技術士としての社会貢献

資格取得により、社会に対する責任と仕事における影響力が増しました。身の回りで起きる道路交通分野の課題に対し、自分に何ができるか自然と考えるようになりました。それを実行出来る環境にあることは私にとって幸いな事だと感じています。とりわけ交通安全対策は、世界にも稀にみる急速な高齢化に伴う対応が急務です。国土交通省により推進されている自動運転技術のロードマップは対策の一つとなりますが、地方道路等のハード対策は依然として当面の課題となるでしょう。この大きな課題への解決策が見い出せるよう、官民連携の中で社会貢献していきたいと考えています。

会員からの便り

私が技術士試験を通して得たもの

1. 自己紹介

私は1972年生まれの49歳です。大学卒業後、建設コンサルタント（水コン）に入社、2013年に現在の会社へ転職し、昨年4月より大阪へ移動となりました。担当業務は一貫して下水道業務全般のコンサルティングになります。業務経歴は25年になりました。この「会員からの便り」は、学生の方も読まれているとのこと、技術士の受験勉強を通して、私が得たものを綴りたいと思います。少しの間、お付き合いください。

2. 何が分からないのか？

新卒入社した会社は「技術士になって一人前」というような企業風土であり、技術系の職員は全員技術士試験を受験することが暗黙の了解でした。私が技術士に合格したのは2010年（38歳）です。当時の合格者の平均年齢は42歳だったので、世間一般からすれば早くに合格したと思われる。しかし、当時在籍した会社では技術士補の一発合格は当たり前、技術士も二十代後半～三十代前半に合格が標準でした。そのような会社環境の中で、私は技術士補8回連続不合格、三十代半ばで資格無しで、とても肩身の狭い思いをしておりました。そんな状況を打破しよう一念発起しました。まずは現状の自分を正確に知ることから始めることにしました。それは「何が分からないのか？」から始まりまず、お恥ずかしいことに、しれっと読んでいた問題の意味が理解できてないことに気が付きました。そもそも知っていると思っていた用語も上手く説明できませんでした。それからは、ひたすら「わからないこと」を整理して理解する日々が続きました。

3. 下水道事業の経営戦略業務

最近「地方自治体の下水道事業運営の経営戦略」を担当しております。下水道事業は住民から使用料を徴収して、事業を運営する公営企業です。一般企業としては、目指すところは「収入>支出」（つまり黒字化）です。ところが殆どの自治体は「収入<支出」（つまり赤字）です。

田原 修一

(たはら しゅういち)

工学部土木工学科 1996年卒

技術士（上下水道部門）

株式会社 パスコ



このような状況で10年間でさまざまな取り組みを行い、黒字化（もしくは赤字額の減少）を目指して経営上の戦略の計画を策定することが、担当した業務の目的です。

この業務は下水道の知識より、会計の知識が必要となるため、公認会計士と協業の上、業務を遂行しております。下水道の知識は必要最低限のことは持ってはおりましたが、会計の知識は無いに等しい状況でしたので、公認会計士の説明が全く理解できない状況でした。

4. 技術士取得の勉強経験が役に立つ

この状況は、本気で技術士の試験対策を始めた頃に似ていました。説明内容は何となくはわかるが、本質を理解していない。言葉や用語の説明を正確にできない。ここでも自分の現状を正確に把握することから始めまることにしました。わからないことは、まずは資料やネットで調べ、そして公認会計士に説明して頂きました。担当された公認会計士にとっては初歩中の初歩の質問であり、とても煩わしかったであろうと思いますが、懇切丁寧に解説して頂きました。今では何とか公認会計士の説明も理解できるようになり、客先からの質問の受け答えもできるようになりました。

5. 技術士勉強を通して私が得たこと

私は学生時代の成績は下から数えた方が早いほどでした。社会人でも周りの技術者が続々と技術士に合格する中、取り残されました。ですが、やる気になれば技術士は決して無理な資格ではありません。そして、受験のために努力した経験は専門技術の取得だけに止まらない貴重なものでした。私の経験を綴ることで、東海大学の学生さんの中から、少しでも技術士を目指して頂ければ幸いです。

§ 7. 2021 年技術士全国大会 創立 70 周年記念テクニカルツアー参加報告 —筑波宇宙センターと首都圏外郭放水路見学—

昨年 11 月 27 日（土）、日本技術士会主催のテクニカルツアーに参加しました。午前中は紅葉真っ盛りの「筑波宇宙センター」の見学で、H-II ロケットや展示館「スペースドーム」内に展示されている各種人工衛星、国際宇宙ステーション（ISS）の一部である「きぼう」（日本の実験棟）など迫力がある展示物を見学しました。ツアー参加者 30 数名が 2 班に分かれて、ロケットのエンジンや人工衛星の使い方などについての説明を熱心に聞き、性能や材質などについての質問が相次ぎました。



写真 1. ロケット広場：H-II ロケット



写真 2. 「きぼう」日本実験棟

私の高校在学中の将来の夢は「宇宙飛行士」でしたので、宇宙開発の歴史資料を見ているうちに 50 年前に日本ロケット開発の父「糸川英夫博士」にお会いし直接お話しを伺ったことなどを思い出しました。JAXA では宇宙飛行士を募集しており、新たな宇宙飛行士が誕生する日も近いでしょう。

午後からはバスで移動して首都圏外郭放水路、

平野 滋（ひらのしげる）

工学部経営工学科 1974 年度卒

技術士（経営工学部門）

平野技術士事務所



通称「防災地下神殿」を見学しました。テレビのニュース番組で良く取り上げられているのですが、正確な場所や施設の概要はほとんど知りませんでした。私の家から車で 30 分程の場所にあったのには驚きました。

首都圏外郭放水路は埼玉県を通る国道 16 号の地下約 50 メートルに建設されており、水を倉松川など地域の河川から取込む「立坑」・地下で水を送り込む「トンネル」・水を弱めてスムーズな排水を促す「調圧水槽（緊急停止時の水圧調整用）」・水を江戸川に吐き出す「ポンプ設備」などで構成されています。



写真 3. 調圧水槽

写真 3 は「調圧水槽」の柱の下で撮りました。調圧水槽は長さ 177m、幅 78m、高さ 18m の柱が 59 本も林立する巨大な空間で本当に地下神殿のようでした。調圧水槽の下までは、エレベータがないため 116 段の階段の下りと登りが必要で帰りは息が切れました。しかし、今回の参加者の中には、100 才になられる方がみえ、この階段の下り登りにも挑戦されたのには感服でした。

この調圧水槽の見学でも説明を担当された女性に、水位上昇に伴う空気圧をどのように調整する

のかとか、過去どこまで水位が上がったことがあるかなど、ここでも質問が相次ぎました。

さて、次は立坑（たてこう）のキャットウォーク（内側の狭い通路）からも見学しましたが、板一枚下は奈落の底で怖い怖い。早く出たかったです！自撮りした写真4の後ろに見えるのが、先ほどの地下神殿と言われる調圧水槽です。



写真4. 調圧水槽を望む

立坑は深さ71m、内径約30m。スペースシャトルや自由の女神像がすっぽりに入るくらいの深さです。怖くて覗けずカメラだけ向けました。



写真5. 立坑を望む

その後は中央操作室の見学です。中央操作室では首都圏外郭放水路のすべての情報が集められ、水位や雨量の監視やゲート操作、ポンプ設備の起動などを行っています。



写真6. 中央操作室

面白かったのは、中央操作室がTBSドラマ「下町ロケット」の1シーンとして使われていたようですが、全く知りませんでした。



写真7. 下町ロケットの1シーン

調圧水槽に集められた水を江戸川に排水するために巨大排水ポンプを4台配置し、これには航空機用に開発・改造されたガスタービンが使われています。排水ポンプの出力は国内最大級の14,000馬力で、4台同時に動かすと最大200m³/秒となり、1秒間に小学校の25mプール1杯分を排出することが可能となります。

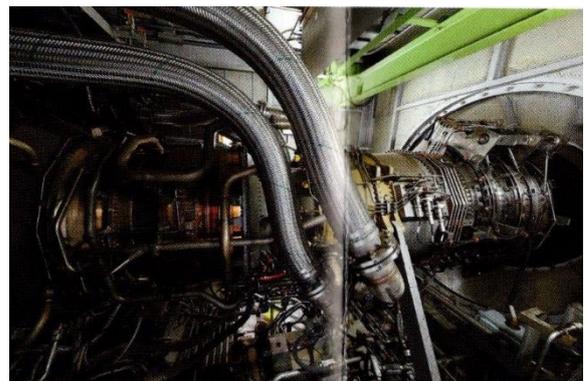


写真8. 巨大ガスタービン

施設に水を取込むのは年平均7回で、最も多いとき（平成27年9月の台風17号、18号）には約1900万m³の排水を記録しています。この外郭放水路が13年かけて2006年6月に完成した事により昔から浸水被害に悩まされてきた埼玉県の中川・綾瀬川流域の防災に大いに役立っています。

最後に日本技術会のツアー幹事の方はじめ、案内していただいた皆さんには大変お世話になりました、お礼申し上げます。

§ 8. 望星技術士会主催の岩佐直人氏講演会の概要

副会長代表：笠原勉

1. はじめに

望星技術士会も設立から7年目を迎え、湘南校舎工学部土木工学科・建築学科や札幌校舎生物学部の在学生に向けて、技術士資格の必要性や就職先となる各業界の業務紹介の出前授業が定期開催できるようになりました。在学生からは、社会における技術士の役割や重要性を学べたとの意見も数多く聞かれ、手応えを感じています。今回は会員や在学生を対象に、会員講師による最新技術の講演会を企画しました。

役員会でTBSのテレビ番組「夢の扉プラス」で「土砂崩れを防ぐ技術革命」に出演された岩佐直人氏が推薦され、講演をお願いしたところ快諾いただき実現しました。

2. 岩佐直人氏の経歴

島根県出身

1981年3月 工学部土木工学科卒

1981年4月 日鐵建材工業(株)入社
(現日鐵建材(株))

2021年4月～藤井基礎設計事務所

技術士：建設部門(土質及び基礎)



日鐵建材(株)在職中は、新製品の研究開発、市場展開、海外への技術展開に従事されてきました。現在は藤井基礎設計事務所にて学会活動や防災技術普及活動をされながら、法面工効果や斜面土壌水分と崩壊に関する研究、森林根系効果に関する研究等に関わっておられます。

3. 岩佐氏の講演概要

- ・講演日時：2022年2月19日 15:00～16:30
- ・講演場所：全国水産技術協会会議室を拠点にしたWeb方式で実施
- ・参加者：31名(在学生6名)、申込者47名
- ・講演タイトル：激甚化する土砂災害の対応 - 『命』を守る行動って? -

1) なぜ斜面が不安定化して崩壊するのか？

斜面の崩壊：①がけ崩れ、②地すべり、③土石流、④深層崩壊を図化で紹介され、斜面の安定理論と降雨による崩壊を、土木模型動画でわかりやすく解説された。

2) 最近の土砂災害の動向

土砂災害が多発する日本の状況を激甚化する降雨形態と土砂災害発生増大を経年変化棒グラ

フで比較され、今後地球温暖化による豪雨によって、さらに甚大な被害がでると解説された。

3) 自然斜面特性について

半世紀前までの山地では木材が貴重なエネルギー源となり、伐採によって「はげ山」となり荒廃していた。現在は人工林・保安林が形成され森林の機能で斜面崩壊が激減するが、近年の豪雨によって、森林機能で対応できない崩壊が発生し甚大な被害も多発している。森林の斜面防災機能を模型降雨実験の動画で解説された。

4) 自然斜面補強土工法の効果

森林の斜面防災機能を活用して岩佐氏が開発した「ノンフレーム工法」の豪雨時の斜面安定性効果を、大型模型斜面降雨実験で検証された。

この工法はコンクリートむき出しの従来工法に比べ、森林の植生を生かし根系の斜面防災機能を発揮し、自然景観も保全できる土砂崩れ防止技術革命と感じた。



ノンフレーム工法概要と施工後の自然景観

最後は人的被害「ゼロ」に向けた土砂災害対策は、自助・共助・公助で実現するハードとソフトの有機的連携による具体的な説明でした。特にハザードマップの確認と降雨情報を活用し、自ら避難して命を守る重要性を力説された。

4. おわりに

河川洪水や土砂災害への対応は日本の喫緊の課題であり、自然植生や森林機能を有効に活用した本技術が今後採用されると感じた。土木技術者の難解な数多くの質問に対し、自分の培った技術を基本に本音で回答され、参加者全員が納得できたと確信している。

地球温暖化は海水温の上昇を誘発し、生物生息環境に悪影響を与え砂漠化が進行している。当会にはサンゴ礁・藻場・人工干潟の再生事業やCO₂の海中貯蔵技術の最前線で活躍されている会員がいる。今後も時代のニーズにあった講演会を企画する予定である。

§9. 会員インタビュー

神藤顧問とのインタビュー

望星技術士会幹事 畑 恭子

4月2日（土）オンラインにてインタビューさせていただきました。

畑：本日は、望星技術士会設立時のメンバーでもあり、発足時より3年にわたり副会長代表を務めていただきました神藤典一顧問にインタビューさせていただくことになりました。神藤顧問、今日はよろしくお願いします。

神藤顧問：よろしくお願いします。

畑：コロナ禍が落ち着いたら美味しい珈琲をいただきながらインタビューさせていただくお約束でしたが、まん延防止重点措置が解除されても感染者数が下げ止まっているため、オンラインでのインタビューになってしまいました。それでは、早速ですがお話を伺っていきたいと思います。



【写真1 神藤顧問】

・東海大学卒業生の技術士第一号とお聞きしました。技術士取得のきっかけを教えてください。

神藤顧問：当時勤めていた会社の仕事として、技術指導をしていた会社の工場長が技術士でした。その方は技術者として非常に優れていたもので、勉強方法をお聞きしたところ、技術士という資格を取得したと話されました。技術士ってなんだろう？と調べてみたところ、国家資格だということがわかり、あの人柄の良い工場長が取られたものならば信頼できそうだと思います。受験することに致しました。それが29歳の時です

ね。

畑：お若いですね。

神藤顧問：今と違って、当時は技術士試験に関する情報が不足していて、実務経験7年の中に大学院での研究期間を含めることができるのかもわからず、当時の科学技術庁に直接聞きに行ったりしました。大学院での研究期間を含めてギリギリ7年でしたが、受験することができました。筆記試験もなかなか大変でしたが、その次の口頭試問では私の年齢が若かったせいかもしれませんが、工場のレイアウトなどまだやったことがない実務的な質問もガンガンされました。でもそこで負けてはいけないと、知識をつなぎ合わせてなんとか答え、これはダメかな、とっていたら、合格致しました。

畑：一発合格ですか？ すごいです！ 会社でも技術士第一号だったのでしょうか？

神藤顧問：そうです。私も含めて、当時会社で技術士はまったく知られていない資格で、試験を受けに行く日は平日だったのですが、休みを取って行きました。筆記試験と口頭試問の2回休みを取りましたが、体が弱くなったのか？と嫌味を言われたりもしました。

畑：それは大変でしたね。国家資格を取得したので資格手当が出る等なかったのですか？

神藤顧問：日刊工業新聞と専門誌に合格者が掲載され、それを見た人が社長に報告してくれて、社長から「おめでとう」と言ってもらえたことは嬉しかったです。その後、給料が少し上がり、半年後に課長に抜擢されました。部下はいませんでした。

・お仕事で技術士という資格は役に立っていましたか？

神藤顧問：在職中、JETRO（日本貿易振興機構）

の依頼で表面処理に関する技術指導のため中国に行きましたが、同行した友人も技術士でした。人選において国家資格の有無は重要だったと思います。このJETROの仕事のつながりで、会社を55歳定年の前に退職した後、JICA（独立行政法人国際協力機構）に席を置きました。JICAでは、ブラジルやヨルダン、エジプト、カナダ、アメリカなどに行って技術指導を行いました。

畑：お一人で行かれたのですか？

神藤顧問：すべて、家内と一緒にです。一人で長期行くのは厳しいですね。

畑：素敵ですね。JICAに移られる際にも、技術士という資格は役に立ちましたか？

神藤顧問：それはもちろん。技術士があると、手当も一級あがります。JICAを65歳で定年退職した後、個人事務所を開設しましたが、これも技術士を持っているからできることですね。

畑：技術士は国家資格ですから、国内外で信頼度が高いですね。

・技術士として働くことにおいて心掛けていらっしゃることを教えてください。

神藤顧問：コンサルタントとしてクライアントに対する接し方ですね。クライアントから依頼があったことは基本的には断らない。断ると次から声がかからなくなるから。どうしても引き受けられそうにない分野であっても、一旦は引き受けて、仲間同士でなんとかするようにしています。そういう意味でも技術士同士のネットワークは重要です。それから、技術指導でいろいろな会社や工場に伺いますが、書類や工場を見せていただくと、いろいろな問題点が見えてきます。でも、それを最初に指摘してはダメで、信頼関係が築けた頃に、何気なく機械の資料を渡したりして、何気なくうまく進むように誘導するように心掛けています。あとは、同業者にクライアントの愚痴などは言わないように

しています。回り回ってくるかもしれないので。

畑：大変参考になります。気を付けます。

・望星技術士会設立時にご苦勞されたことを教えてください。

神藤顧問：当時、大学の先生方が技術士という資格を理解されていなかったことが一番困ったことでした。そのため、大学側に技術士会設立を働きかけても動いていただけなくて、これは普通のやり方ではダメだなと思いました。

畑：ボトムアップではダメだからトップダウンを狙ったのですか？

神藤顧問：そうです。このあたりの経緯については、会報の創刊号と第二号にも書きましたので、そちらもご覧いただきたいと思います。

畑：会報を拝見しましたが、大学の技術士第一号として神藤顧問が松前達郎先生（現総長）に数十年ぶりにご連絡したとありましたが、トップダウンのお相手として松前達郎先生をお選びになったのはどうしてでしょうか？

神藤顧問：それは私が松前達郎先生の教え子で、私の卒業論文の指導教授だったからです。さらに言えば、私的に、松前先生ご夫妻には大変お世話になりましたので、ご自宅にもお電話ができた次第です。

畑：それはすごいホットラインをお持ちだったのですか！

神藤顧問：松前達郎先生に技術士資格と大学技術士会設立の想いをご理解いただいてからは、本当にとんとん拍子に話が進みました。先生には大変感謝しています。

・望星技術士会の活動の中での思い出を教えてください。

神藤顧問：総会や懇親会での思い出より、その後、少人数で代々木上原の駅前に繰り出した時の方がよく覚えていますね。あとは、やはり

会の立ち上げ時に7人の侍で珈琲を飲みながら協議していた時は楽しかったです。新しいものを立ち上げる時はワクワクしますよね。

畑：コロナ禍もあり、最近では直接お目にかかる機会が減っていて残念です。

神藤顧問：やはり、会としては新しい人が入ってきて新しい発想で進めて行かないといけないと思いますので、私は早々に一步引かせていただきました。

畑：昨年度、吉田先生にインタビューした際にも同様のことを先生がおっしゃっていました。

神藤顧問：そうですね。立ち上げ時から5年間、十分やりましたので、後は新しい方々にお任せします。

・今後の望星技術士会に望むことはありますか？

神藤顧問：会の設立に関しては、トップダウン方式でスムーズに進みましたが、そこで反省したのは、大学の教職員の皆さんに技術士を理解してもらわないと学生さんにちっとも伝わらないということです。本当は、学生に技術士という資格について理解してもらって、在学中に一次試験を受験してもらい、卒業したら二次試験を取るぞ！という勢いでやってもらいたいです。技術士は産業界における最高の資格ですから。それにはまず教職員の方に理解していただき、学生へのPRにも協力してもらえらるような活動をしてほしいと思います。

畑：それは、現在の望星技術士会でも重点取組事項になっています。設立時から湘南校舎では在学生とOB技術士との講演・交流会を行っていますが、令和元年度は清水校舎、令和2、3年度は湘南校舎の学生へのリモート講義、さらに令和3年度は札幌校舎の学生への出前講座を行いました。

神藤顧問：活動が広がっていて良いですね。

もう一つは、大学技術士会の講演会などにも積極的に参加して、他大学の技術士会との情報交換や連携などを図って欲しいです。会の運営や会員の増やし方など、いろいろ参考になることがあると思いますので、忙しいとは思いますが、参加していただければと思います。

畑：大学技術士会の情報は共有しているので、積極的な参加について今後検討したいと思います。

神藤顧問：私自身が東海大学の技術士第1号であることに誇りを持っていますが、同時に最初に技術士法が制定された時、我が東海大学の松前重義博士（本学創設者で理事長、学長、逓信省総裁）と篠原登博士（初代科学技術事務次官、重義先生の右腕とも言われた、後の本学学長）が技術士法制定に大きく貢献しました。従いまして、卒業生にはこの本学の歴史を知って頂き、さらに努力して、大学技術士会の中でも会員数が多いと言われるようにして行かれれば良いと考えています。

・最後になりますが、若手技術者や大学生に向けて辛口でかまいませんのでエールをお願いします

神藤顧問：技術者を志して入社した方は、自分なりの技術を身につけるまでは頑張ってもらいなあと思います。すぐに辞めちゃうともったいないですよ。私は30年近く会社において自分なりの技術を確立した後、転職、個人事務所の開設を行っていますが、やはり人間70歳を過ぎると技術の更新が大変になってきます。技術指導に行っても、危ないから危険な設備には触らないで下さいとか言われて、がっかりしました。こっちは実際にやってみて示したいのに。

畑：それはつまらなかったですね。

神藤顧問：本当に。それで70歳の時に、自分の技術の更新はここまでにして、もっと幅広く

いろいろやってみようと思いました。技術士とは違いますが、社会福祉士と精神保健福祉士という国家資格をそれぞれ1年ずつ勉強して取得しました。自分なりの技術を身につけた先にも、世の中知らないことが山のようにあり、それを勉強することは大変面白いことだということを若い方にお伝えしたいです。知らないことを知ることは非常に楽しいということ。そしていろいろ知ること、一か所から当てられた光では光るけどそれ以外は光らない石ではなく、ダイヤモンドのようにどこから光を当てても光るような石になりなさい、と伝えたいです。

畑：名言ですね。さすがに山梨で宝石加工の技術指導をされた方ですね。

神藤顧問：ダイヤモンドが光るのはカット技術が良いからですね。

畑：さすが表面処理の専門家…

望星技術士会設立前に7人の侍が集まった新宿の喫茶店で珈琲をいただきながらインタビューさせていただく予定でした。画面越しのインタビューになってしまいましたが、約1時間半にわたりお話を伺わせていただきました。紙面の関係でお聞きしました内容すべては掲載できませんでしたが、JICA時代の海外での生活や、山梨県の客員研究員として技術指導をされていた頃のお話、さらには社会福祉士と精神保健福祉士の資格取得に関するお話まで、非常に多岐にわたるお話をお伺いすることができました。

神藤顧問のフラットで柔らかい語り口について引き込まれ、予定時間を大幅に過ぎてしまい、大変申し訳なく思っております。次に代々木上原駅前のお店に少人数で繰り出す時には、ぜひ末席に加えていただきたいと思います。

神藤顧問、今日はありがとうございました。



【写真2 精神保健福祉士の登録証を見せていただきました】

§ 10. 会員の近況報告

① 出身学部学科 ②技術士の部門 ③現在の仕事 ④ひとこと（卒業年度順）

【1967】

●曾根英樹 ①建設工学土木専攻 ②建設部門
③阪神高速道路先進技術研究所 テクニカルアドバイザー／阪神大震災震災資料保管庫 ボランティアガイド ④コロナウイルス戦争を早く収束して元の状態に早く帰りたい

【1971】

●高田 寛 ①工学部建築学科 ②建設部門、総合技術監理 ③建設コンサルタントの非常勤顧問 ④今年で最後になるのかな、と思いつつ、ここ数年、各種民間資格その他の継続、更新を若い人たちに混じって続けてまいりましたが、改めて更新基本テキストなどを読むと、時代や社会環境の流れの速さと、自身の知識のガラパゴス化を痛感させられ、啓発されることが多いです。

【1972】

●大下和夫 ①海洋学部海洋工学科 ②応用理学部門建設部門環境部門、総合技術監理（建設、環境）③力になれることがあればお手伝いします ④3月に「いであ（株）」を退職し、フリーで活動します。（技術士事務所）

【1974】

●笠原 勉 ①海洋学部・海洋工学科 ②水産2部門・環境部門・建設部門 ③一般社団法人に勤務し水産技術コンサルタント業務に従事。現在は北海道の磯焼け海域で鉄イオンと栄養塩を付加し、漁業者と連携して天然のコンブ場を再生させニシン漁場を目指しています。 ④昨年 11 月札幌キャンパス生物学部在学学生を対象に、技術士の必要性・海洋コンサルタント業界の説明とコンブ場再生技術の対面授業を実施。目を輝かせ熱心に聞き入る学生の姿に、「鉄は熱いうちに叩け」と望星

技術士会の活路が開け、会員 4 名とススキノでジンギスカンと生ビールで祝杯・最高でした。

【1975】

●佐藤健一 ①海洋学部・海洋土木工学科 ②水産部門 ③アジア航測株式会社の技師長、兼任で気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 館長 ④気仙沼市の旧宮城県気仙沼向洋高校の被災校舎を活用した「震災遺構・伝承館」において、震災の記録と記憶を来館者（小中高校生や一般の方々）に伝え、震災の分析結果等を未来に伝承、また、そのことを内外に伝えるという業務に従事しています。是非、来館いただき改めて自分ごととして東日本の大震災を見つめていただければ幸いです。

●志太 守 ①海洋学部海洋土木工学科 ②建設部門（施工計画・鉄道）③無職 ④定年退職後は自治会役員を 3 年間しました。現在は松本清張の古代史および近代史の書籍を読みながら冬籠りしています。

【1976】

●綿貫 啓 ①海洋学部海洋土木工学科 ②水産部門（水産土木） ③アルファ水工コンサルタント東京本社 統括参事、日本水産工学会理事、水産工学技士養成講座講師 ④海藻の森づくり、サンゴ増殖、ナマコのアパートづくりや魚礁の設計が主な仕事です。沿岸構造物に望まれる様々な漁業協調方策の提案や調査を行っています。

【1977】

●二階堂悦生 ①大学院工学研究科土木工学専攻課程修了 ②上下水道部門 ③株式会社西部技術コンサルタント関西営業所勤務（所長） ④コロナ禍で会議はリモート。地域の防災活動に参

加しています。

●山田 浩 ①工学部通信工学科 ②電気電子部門 ③労働安全に関するコンサルタント業務を行っています。④労働安全は技術士の技術部門とは少々異なった仕事ですが、労働災害のニュースが報道されるようにまだまだ労働災害による被災者が多く、少しでも労働災害を防ぐことに貢献できればとの思いから日々活動をしています。

【1980】

●今村 均 ①海洋学部海洋土木工学科 ②建設部門（建設環境） ③里海技術士事務所 ④五洋建設(株)で20年間→日本海洋コンサルタント(株)で20年間の勤務を経て、これからの20年先に向けて、フリーランスとして独立しました。お役に立てる事がありましたら、いつでもお声掛け下さい。

●齋藤 寛 ①工学部土木工学科 ②建設部門 ③個人事業で建設コンサルタントとして活動 ④建設業界ではコロナ禍の影響は遅れて現れてくることを実感しています。事業の遅延、工期延期は零細経営には厳しい事態となります。多角的な市場形成の重要性を学びました。反面、望星技術士会の役員活動では、新しい取組み成果があり、手応えを感じているところです。

【1981】

●岩佐直人 ①工学部土木工学科 ②建設部門（土質・基礎） ③コンサルティング ④地盤防災について技術普及・調査研究を行っています。先日は望星技術士会にて「激甚化する土砂災害への対応一命を守る行動って？」というタイトルで講演をさせていただきました。講演機会をいただきありがとうございます。日頃の警戒・避難の参考にさせていただければと願っています。

【1982】

●齋藤浩之 ①工学部土木工学科 ②建設部門、

総合技術監理部門 ③経営（技術部門担当） ④2年間、コロナウイルスに翻弄され、社内行事や協会・学会行事を対面で行うこともできなく、ストレスの溜まる状況です。そのため、趣味のゴルフでストレス解消を行っています。

●桜井裕一 ①工学部土木工学科 ②建設部門（建設環境） ③さくらコンサルタント&エンジニアオフィス 代表 ④現在、望星技術士会の常任幹事として会の運営に携わっています。仕事面では個人事務所を立ち上げてまだ一年程度ですが、企業への技術コンサルタント業務や大学と某コンサルタント会社と共同でコンクリート混和材の研究開発等を行っています。また、日本技術士会防災支援委員会でも活動しています。

●山本真之 ①工学部土木工学科 ②総合技術監理部門、上下水道部門 ③パンフィックコンサルタンツ株式会社東北支社 ④上記会社に新卒で入社し、3年前に無事、定年を迎えました。「身体が元気なうちは・・・」と思い、再雇用で勤務しております。

【1987】

●山崎俊雄 ①工学部通信工学科/院 電気工学専攻, ②, 電気電子 ③アンリツ株式会社 SCM 本部 品質保証部 ④「アンリツ株式会社」の駅看板が東海大学前駅に設置されています。

●星崎紀一 ①工学部 工業化学科 ②上下水道部門-下水道 ③星崎技術士事務所（下水道に関する調査/設計） ④技術士事務所を開設して4年目を迎えます。おかげさまでいろいろな方から仕事をいただき仕事の輪が広がっています。

【1991】

●佐藤哲也 ①海洋学部海洋資源学科 ②建設部門 ③コンサルタント ④株式会社交通総合研究所という、都市・交通を専門とするコンサルタント会社にて、主に ICT×都市・交通という視点から、国内・海外でのコンサルティング業務に従事しています。

【1992】

●蜂谷一彦 ①工学部・土木工学科 ②上下水道部門、総合技術監理部門 ③上水道の設計コンサルタントにて、設計・計画の業務に従事（勤務先：日本水工設計株式会社） ④福岡の地に住んで30年近くになります。休日は登山、クライミング、雪山のバリエーションルートなどのほか、山仲間にはレスキュー技術を伝授するなどの活動を続けています。

【1994】

●島田祐作 ①海洋学部海洋土木工学科 ②建設部門・総合技術監理部門 ③アイコオ設計株式会社 代表取締役・広島県設備設計事務所協会 専務理事（主に給排水衛生設備の設計ですが、土木設計もやっています） ④今年こそは週末ランニングするつもりが、新年の3日間で止まってしまい、太る一方。3月末まで仕事が落ち着いたら、再開する予定です。昨年7月から週1日の禁酒生活は、頑張っ続けています。

【1995】

●田原修一 ①工学部土木工学科 ②上下水道部門（下水道） ③下水道設計調査全般 ④昨年の4月より大阪に単身赴任しております。

●藤田孝康 ①総合理工学研究科博士（工学） ②建設部門（建設環境）、水産部門（水産土木） ③漁港施設ストックマネジメント（機能保全計画に関連する業務、非破壊検査に係る研究）、有明海におけるアサリ増殖および漁場改善に関する事業、および水門・陸閘の開閉判別システム開発への参画という3分野に係る業務や研究に携わっています。 ④年末から2月にかけて、在宅と出社を概ね半々でやりくりしています。年明けから今年度業務とりまとめと来年度業務の準備が中心であったため、なんとかまわしています。打合せはほぼwebでニュアンスや「間」の重要性を改めて感じています。

【1996】

●磯打千雅子 ①海洋学部海洋科学科 ②建設部門、総合技術監理部門 ③香川大学地域強靱化研究センター ④自宅の庭で焚火を楽しんでいます

【1997】

●向平拓司 ①工学部土木工学科 ②建設部門（河川、砂防及び海岸・海洋）、上下水道部門（下水道、上水道及び工業用水道）、総合技術管理部門-建設（河川、砂防および海岸海洋）、上下水道（下水道） ③株式会社パスコ東北事業部技術センター社会情報部の部長職として、組織運営、業務管理に携わっています。 ④コロナ禍のためリモートによる社内会議や客先協議の機会が増え、東京や地方への出張機会が激減していることから少しものたりない気分になります。そのような中でも、いままで顔を見る機会が少なかった方とリモート会議で気軽に顔を見ながら会話できる機会が増えたことは、よかったと感じています。暗い話題が多い中でも少しでも前を見て！仕事をしようと心掛けています。

【1999】

●中里彰人 ①工学部建築学科 ②建設部門（土質及び基礎） ③基礎杭の載荷試験工事 ④様々な基礎杭の載荷試験を実施しております。

【2000】

●鳥本博靖 ①工学部土木工学科 ②森林部門（森林土木）建設部門（河川砂防） ③建設コンサルタント ④北海道で治山事業の測量設計をしています。

（注）卒業年度は学部卒で統一しました。大学院修了のみの記載の方は修了年度に記載しました。

§ 11. 新たな技術士 CPD 制度について

はじめに

2021年4月26日に発出された大臣通知と9月8日の文部科学省省令改正に基づき、新たに技術士 CPD 活動実績の管理と活用制度が始まりました。新制度の概要について紹介します。

CPD とは

CPD とは「継続研さん (Continuing Professional Development)」のことをいいます。技術士資格は専門的知識や技術力、高い倫理感といった資質能力を保証するものであり、技術士の CPD 活動には、資格取得後もその資質能力を維持するだけでなく、更に向上させることが求められています。したがって、「専門的学識」「問題解決」「マネジメント」「評価」「コミュニケーション」「リーダーシップ」「技術者倫理」の7つのコンピテンシーを最低限備える必要があります。

新たな CPD 制度の概要

これまでの CPD 登録制度と大きく異なるのは次の2点です。1点目は、文部科学大臣が、国内外における技術士資格の活用促進を図るためには、すべての技術士に対して CPD 活動の実績管理と活用を公的な仕組みに組み込むことが必要と判断し、その事務を日本技術士会に担わせたことです。2点目は、技術士の CPD 活動の履行状況を公的に裏付けるために、技術士法施行規則第14条を改正し、技術士登録簿の登録事項を追加し、資質の向上の取り組み状況を記載する欄を設けたことです。

この新たな登録制度によって、一定以上の CPD 活動実績のある技術士に対して、証明書の発行や名簿の公表、「技術士 (CPD 認定)」の認定を行う公的な仕組みが構築されました。

キャリア形成に必要な CPD 時間

基準 CPD 時間：20 CPD 時間/年度
推奨 CPD 時間：50 CPD 時間/年度
技術士 (CPD 認定)：250 CPD 時間/5 年度

永井 和典

(ながい かずのり)

工学部建築学科 1984 年卒

技術士 (衛生工学部門)

川本工業株式会社



基準 CPD 時間とは、技術士のキャリア形成の観点から技術士資格取得後において、その資質能力を維持するために必要と考えられる年間の CPD 時間のことです。推奨 CPD 時間とは、積極的に資質能力を向上させ、より高度なエンジニアとなるために必要な年間 CPD 時間として推奨している CPD 時間のことです。

また、5 年間で 250 CPD 時間の実績と 5 CPD 時間以上の技術者倫理の実績のある技術士を「技術士 (CPD 認定)」と称し、5 年間の有効期間中、希望者は名簿をホームページに掲載するとともに、「技術士 (CPD 認定)」の名刺への標記と日本技術士会が定めるロゴマークの使用が認められます。なお、移行措置として、2023 年度末までに申請する場合は、過去 2 年度間連続して推奨 CPD 時間を達成している実績により同様の措置が講じられます。

取り組みのメリット

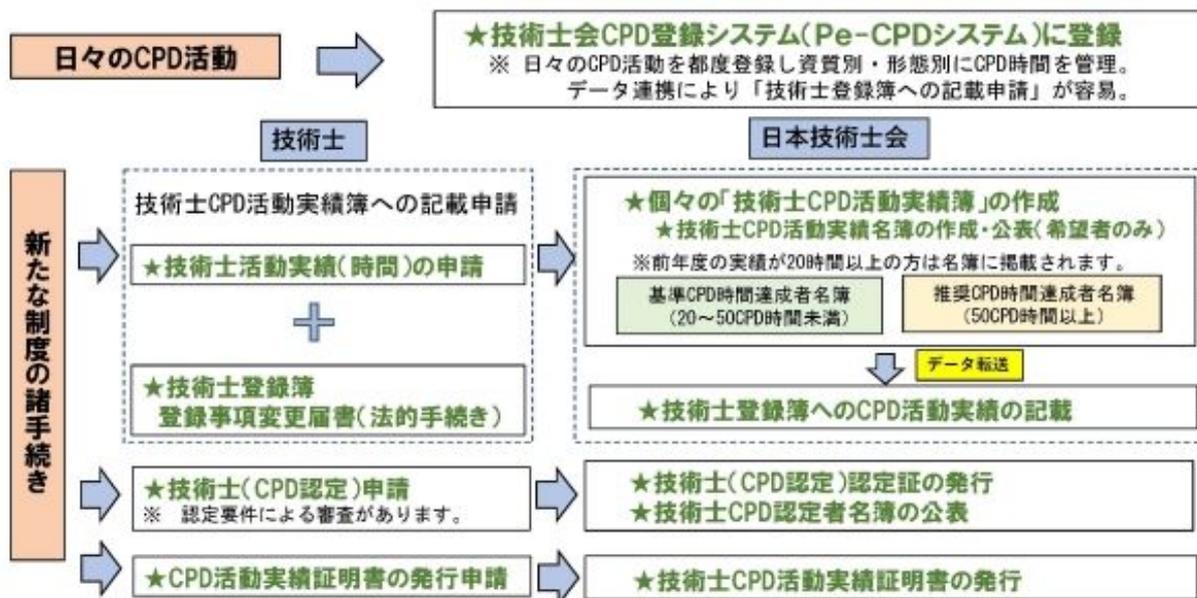
新たな技術士 CPD 登録制度に取り組むことにより以下のようなメリットがあります。

- ①技術士 CPD 活動実績を公的に証明
- ②名刺に「技術士 (CPD 認定)」を記載して活用
- ③技術士の認知度向上により活躍の場が拡大
- ④公共調達での活用促進 (総合評価落札方式等)
- ⑤民間企業の評価基準として活用

日々の CPD 活動

日本技術士会会員の方は、日々の CPD 活動により技術士会 CPD 登録システム (Pe-CPD システム) に登録された活動実績時間を申請すると、個々の「技術士 CPD 活動実績簿」が作成されま

技術士CPD活動実績の管理及び活用制度等の概要



新たな制度への手続き

文部科学省省令改正により、技術士登録簿に技術士CPD活動実績の記載を希望する方は、申請により過去5年度までの実績時間が記載できます。「登録事項変更届書」を提出すると、「技術士CPD活動実績簿」から「技術士登録簿」にデータが転送され、技術士CPD活動実績が記載されます。

技術士CPD活動実績を登録している方が申請手続きをする場合は、日本技術士会のCPD登録システムを利用し、オンラインで一連の手続きが可能です。詳細については、日本技術士会のホームページにてご確認ください。

技術士CPD Q & A

Q1：自分の登録部門と違う技術部門の学習でもCPD実績となりますか。

A1：対象となるので、幅広くCPDを行ってください。

Q2：日本技術士会には入会していません。入会してなくてもCPD登録は可能ですか。

A2：入会してなくても日本技術士会のWEB登録メンバーになって、IDとパスワードを取得すれば、CPD登録は可能です。手数料は毎年度2,000円です。

Q3：登録したCPD時間はどのように審査されるのでしょうか。

A3：有識者によるCPD審査委員会を設置し、「日本技術士会CPD時間算定基準」に基づき一定の割合で抽出して審査を行います。

Q4：エビデンスの保存は煩雑です。なければどうなるのでしょうか。

A4：自己責任で説明できれば構いません。

Q5：他の学協会でもCPD実績を登録しているのですが二重登録は可能ですか。

A5：同じ年度に複数機関の申請はできません。

Q6：日本技術士会の登録システムを利用しています。その場合、CPD登録すれば実績証明書は必要ないのですか。

A6：日本技術士会の登録システムを利用している場合、実績証明書は必要ありません。

Q7：技術士の複数部門を取得しています。技術士活動実績簿への申請はどうすればよいでしょうか。

A7：申請書の技術部門欄に複数記入してください。CPD実績は技術部門共通とし、部門ごとの実績は求めません。以上

§ 12. 東海大学出身者の技術士試験結果の現状

1. はじめに

東海大学望星技術士会は2015年11月に発足し、7年を経過した現在その会員数は211名(技術士207名、技術士補4名)になりました。

この2年間は10名程度と微増ですが、大学技術士会連絡協議会加盟40校の中で、本会の会員数は当初目標であったベストテン入りしたようです。

会員の卒業学科のベスト3は、土木工学科(54名)、海洋土木工学科(46名)、海洋資源学科(29名)で、この3学科で全会員数の6割を占めています。

会員が所属する企業の業種は、建設コンサルタント業が70%になりますので、多くの会員はインフラ分野(公共事業)で活躍していることが推測されます。このように、土木系学科出身の技術士が多数存在していますので、今後の会員数増加対策は、土木系同窓会などを活用し会員増加につなげていきたいと思っています。

今回は、本学出身者の技術士試験に関する近年の受験者・合格者数結果について報告し、今後合格者を増加させる対策などについて、会員はもとより本学関係者や在学生も含めて提案させていただきたいと思えます。

2. 技術士第二次試験結果

最近の本学出身の技術士第二次試験の申込者は500~600人/年、合格者は約30人/年となり、合格率は約5%となっています(本会の独自調査結果)。公開されている技術士二次試験全体の合格率が近年約10%であることを考えると、やや低い傾向にあります(図1)。

その要因は社会に出て技術士取得が不可欠となり受験したものの、“二次試験の勉強方法”や“技術士試験内容の理解不足”が大きな原因であると推測されます。

受験申込者数は500名を優に超えていることから、技術士を目指す卒業生が多いことが窺えるため、合格者が1名でも増加することを切に望むところであります。その手助けとして、望

久一博世(ひさいちひろせ)
海洋学部海洋土木工学科1973年卒

技術士(建設部門)
いであ株式会社
中国支店河川水工部技師長



星技術士会として今後これらの受験者に対し、どのような支援対策が行うことが得策か、会員の皆様のご意見を伺っていきたく考えています。

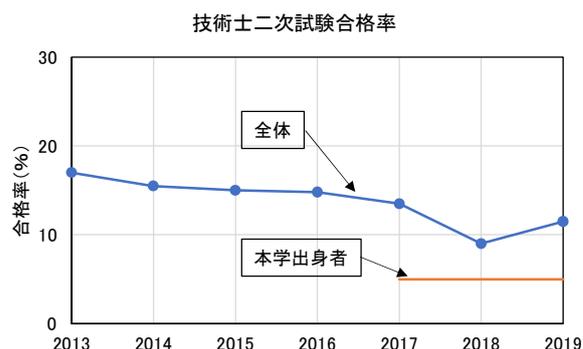


図1 技術士第二次試験の合格率

(<https://shikakutimes.jp/mechanic/1754#1> を加筆)

3. 技術士第一次試験結果

次に、最近の本学出身者の第一次試験試験の申込者は、300名/年以上が受験し、合格者は約50名/年、合格率は約15~17%となっています(図2)。合格率は低いですが、これは教職員や望星技術士会による技術士資格の周知が進んできており、受験者が増えたことに起因しているのではないかと、前向きにとらえています。第一次試験は基礎学力を問う試験なので、学生時代に受験することが得策(日本技術士会HPのデータによると、学生の合格率は社会人より5~10ポイント以上もアップ)です。

なお、技術士第一次試験合格と同資格のJABEE認定制度は、本学も含め186もの大学・高専で取り入れられています(令和4年度技術士第二次試験受験申込案内より)。しかし、本学は2022年度から機械・材料科学科にあった4コースもすべて廃止され、本学の在学生・卒業生は、技術士第一次試験を受験して合格することが必要となります。

ちなみに、日本技術士会の HP によると、JABEE と第一次試験合格者も、第二次試験の合格率は変わらないとのデータがあり、技術士第一次試験は学生時代にぜひともチャレンジしていただけるように、周知活動や支援を望星技術士会が実施すべきと考えています。



図 2 技術士第一次試験の合格率

(<https://shikakutimes.jp/mechanic/1754#1> を加筆)

4. 東海大学関係者へ切なるお願い

本学の理系の大学入試パンフレットでは、建設コンサルタントへの就職率が、卒業生の 10～15%と高い水準にあります。従って、大学理系パンフレットには、在学中取得できる「技術士補」、卒業後に取得できる「技術士」資格を記載し、在学生に対して技術士を認識させていただきたいと思えます。

理系教職員に対しては、インフラ(公共事業)に関連する管理技術者には「技術士が必ず必要」と認識していただき、専門授業の中でも技術士について紹介し、学生が受験志願するように啓発していただきたいと思えます。

筆者が在籍する会社では、本学卒業生が 36 名在籍し、そのうち 15 名が技術士を取得しています。しかし、16 年ぶりに本学卒業生を採用した 2016 年以降の卒業生 7 名の中で、1 名しか第一次試験に合格していない現状です。何度か受験したものの合格せずあきらめたのか、受験申し込みすらしない人もいます。その理由を聞くと『在学中に技術士制度を聞く機会はなく、存在自体知らなかった』との気になる回答もありました。特に、海洋学部では技術士資格に対して意識が低いようで、大学パンフレットの中に

も卒業後に取得できる資格に技術士(補)が記載されていない現状です。

私は、本学卒業生に「技術士」を 1 人でも多く取得し、社会でイキイキと活躍する人材になって頂きたいと思っています。そのために、在学中に技術士制度の存在を知っていれば、取得が早く、また、多くなるのではないかと考えています。

望星技術士会の今後の活動として、大学教職員に対しご迷惑や足手まといにならない配慮は当然として、学生を奮い立たせる活動に全力を尽くしていきたいと思っています。私たちの活動が、学生のやる気を引き出すきっかけになればと、期待をこめて取組んでまいります。

5. 在学生に伝えたいこと

今この文章を読まれている学生さんの中に、インフラ関連を志望する方がいるならば、その人にどうしても伝えておきたいことがあります。

「技術士」とは、科学技術分野での最高位の国家資格であり、「高度な技術力を持った技術者の称号」となっています。従って、社会で認められる技術者になるには、技術士は必須資格であることを肝に銘じておいていただきたい。

また、「技術者(士)」は「科学(研究)者」と異なり、あるミッションに対し所定の期間・コストなどで最善策(妥当解)を提案しなければなりません。つまり、科学者とは少し異なるスキルも身につけておく必要があります。

インフラ整備に従事する技術者には、技術士を含め 40 以上もの資格が用意されています。自分の業種にあった資格試験にチャレンジし、多種多様な技術を駆使して、「地域住民に末長く愛着してもらえるインフラ作り」に貢献していただきたいと思っています。

最後に重ねてお伝えしておきたいことは、『学生時代に技術士第一次試験にぜひチャレンジして欲しい。』これが私からの切なるお願いです。

§ 13. 望星技術士会新役員の紹介

1. はじめまして

本年度より、東海大学望星技術士会の幹事を務めさせていただくことになりました竹内聖一です。どうぞよろしくお願ひします。

2. 私の経歴

私は、広島県呉市の生まれで、海の見える山の麓で育ちました。

幼少期の瀬戸内海は決して綺麗ではありませんでしたが、父、祖父、叔父たちが造船会社に勤めていたこともあり、海に関わる事全般に興味がありました。

小学生の頃には、後に、常任幹事の今村さんと出会うことになる瀬戸内海大型水理模型（当時は通商産業省工業技術院中国工業技術試験所）を見学しました。後々のもう一つの驚きは、当時から既に試験所におられ、大学の時もお世話になった上嶋さんが海洋学部の先輩だったことです。

子供の頃は、将来、何となく理系の仕事ができればいいと思っていましたが、大学進学を考える頃に、「やはり海だ！」というハッキリとした思いになり、東海大学海洋学部海洋工学科へ入学しました。大学4年生では海洋物理学のゼミに入り、同期の畑さんに励まされつつ何とか卒論を仕上げた事を思い出します。

さらに、具体的に就職先を選択すべき時期には、海に拘って仕事をするには、海が得意な建設会社に入るべきだ、そのためには土木の勉強もしないといけない、と考えるようになり、大学院へ進学することにしました。

ちょうど、当時の海洋工学専攻は、海洋工学科、海洋土木工学科、船舶工学科が一緒になっていましたので、先輩の紹介もあり、海洋土木工学科のゼミに入ることができました。

そして、日本テトラポッド(株)（現在の(株)不動テトラ）に入社し、現在に至っております。

入社してからは、港湾、空港、漁港、河川などにおける工事担当、自社の研究所における業務、出向先の土木研究所地すべり研究室での業

竹内 聖一

(たけうち せいいち)

海洋学部海洋工学科 1987年卒
大学院海洋学研究科海洋工学
専攻 1989年修了

技術士（建設部門）

株式会社不動テトラ



務などを経て、最近では、主に自社製品の技術営業を担当しています。

現在、東京に単身赴任しておりますが、その前は、東日本大震災の10年以上前から東北支店に所属されておりましたので、馴染みのある東北沿岸地域の変わり果てた姿を目の当たりにすることになり大変ショックを受けました。

一部工事を担当した釜石港湾口地区湾口防波堤は、世界最大水深に建設された巨大な防波堤で、ケーソン据付時には、正に永久構造物だと感じましたが、津波来襲により、減災効果はあったものの、北堤はほぼ全壊、南堤は半壊したことを知り、自然の力に対する人間の無力さを痛烈に感じました。

震災復旧にも携わってきましたが、自然環境に真摯に向き合い、知恵を絞って防災・減災に貢献していこうと思っております。

3. 技術士について

施工管理に関する資格等は早い時期に取得していましたが、仕事上必要に迫られなかったことと自分への甘えにより、技術士取得への意識は高くはありませんでした。

しかし、技術を売りにする仕事を長く行ううちに、対外的に技術的専門知識と高等の応用能力を有していることを証明するためには、技術士を取得するしかない一念発起し、数度のチャレンジで何とか建設部門（河川、砂防及び海岸・海洋）に合格することができました。

私は、少しのひらめきと、人との繋がりで歩んできたように思います。今後は、望星技術士会の活動を通じ、後輩たちにも好影響をもたらせるように頑張っていきたいと思ひます。

望星技術士会新役員の紹介

本年度より、東海大学望星技術士会の幹事を務めさせていただくことになりました吉田倫夫です。どうぞよろしくお願いいたします。

1. 望星技術士会の活動への参加

望星技術士会の存在は、たまたま他大学の技術士会の講演会が開催される情報を見て、「東海大学にも技術士会はないのかな」と検索した結果、HPを見つけて初めて知った次第です。すぐに入会手続きをして、令和元年度の総会に初めて参加しました。懇親会で名刺交換してみると、今の仕事に関連する方々が多いのにびっくりしました。

その年の秋には、海洋学部の学生への説明会に参加するために、久々に清水校舎を訪れました。会場で報告文を書くように依頼されたので、書かせていただきました（会報第4号参照）。このような経緯で今回、幹事に加えていただくこととなりました。

2. 技術士の取得

技術士の資格は、平成15年に建設部門、平成19年に総合技術監理部門を取得しました。建設部門の受験は制度変更となる最終年度に、港湾および空港分野で係留施設の維持管理に関する課題と解決策について記述しました。

受験のきっかけは、社外の学会・協会活動を担当していて他の参加者の多くの方が技術士を有していたことに加えて、技術士の方々が言うことと、そうでない自分が言うことでは、同じことを言ったとしても説得力に差があると実感したことです。

3. 社会人として

昭和61年に住友金属鉱山に入社しました（東海大学就職情報 No. 9, 1990 参照）。海底鉱物資源の開発に携わりたかったのですが、配属は住鉱コンサルタントの防食事業部というところでした。港湾鋼構造物を腐食から守る事業です。具体的には、港湾施設で使用されている鋼材の腐食状況を調査し、電気防食や被覆防食の腐食対

吉田 倫夫

(よしだ みちお)

海洋学部海洋科学科 1985 年卒

技術士（建設、総監）第 53128 号

株式会社ナカボーテック



策を検討して、防食工事を実施するものです。その後、防食事業部は住鉱防蝕という新会社へ分離・独立しましたが、平成19年に事業を撤退することとなりました。そこで、同業他社であるナカボーテックに転職することになりましたが、この時、技術士の資格を取得していなかったら、転職はしていなかったと思います。

社会人になって以来、港湾や漁港など社会インフラのメンテナンスの仕事に従事し、一貫して海に関係する仕事に従事することができたのは幸せなことだと思っています。

4. 学生時代

兵庫県明石市という日本標準時を決める東経135度線が通る市に生まれ、高校時代まで過ごしました。毎日、自宅から明石海峡を挟んで淡路島を見ていましたので、海への憧れを持ち、海洋学部を受験しました。入学試験は、学科試験に加えて面接試験があり「海への憧れや思い」で盛り上がり、そのお陰で合格できたように思います。

昭和57年、海洋学部の海洋科学学科に入学しました。当時は学生が約160名（40名4クラス）で、教養課程が沼津校舎、専門課程が清水校舎に分かれていましたが、やはり印象深いのは船酔いに堪えながらの海洋実習でしょうか。卒業研究は、化学系の豊田研究室でマリアナ熱水海域の堆積物に関するものでした。化学系の研究室は大部屋方式で、教員・院生・学生が一緒に県の委託環境調査を実施し、いろいろな先生や院生の指導を受け、無事4年で卒業することができました。

最後になりましたが、少しでも母校の後輩の皆さんの参考となるように、望星技術士会の活動に積極的に取り組んでいきたいと考えております。改めて、よろしくお願いいたします。

§ 14. データで見る会員情報

1. 会員数は211名（技術士207名、技術士補4名）
2. 会員のうち、院卒は37名、学部卒は174名、男性は206名、女性は5名
3. 会員の出身学部学科
4. 都道府県別会員数

学部	学科	人数
工学部	応用理学科	3
	精密機械工学科	1
	金属材料工学科	2
	経営工学科	1
	建築学科	7
	原子力工学科	2
	光工学科	1
	工業化学科	4
	航空宇宙学科	4
	制御工学科	1
	生産機械工学科	3
	通信工学科	4
	電気工学科	4
	電子工学科	3
	土木工学科	54
	動力機械工学科	3
	小計	97
海洋学部	海洋土木工学科	46
	海洋科学科	6
	海洋工学科	11
	海洋資源学科	29
	水産学科	10
	地球環境科学科	1
	小計	103
開発工学部	生物工学科	1
九州東海大学	土木工学科	1
情報工学部		1
第2工学部	機械工学科	3
	電気工学科	1
理学部	情報数理学科	2
日本大学理工学部	土木工学科	1
鹿児島大学水産学部	水産学科(院)	1
総合計		211

都道府県名	人数
北海道	9
宮城県	9
福島県	4
茨城県	6
栃木県	1
群馬県	1
埼玉県	7
千葉県	5
東京都	75
神奈川県	29
新潟県	6
山梨県	1
長野県	2
岐阜県	1
静岡県	6
愛知県	4
滋賀県	1
京都府	1
大阪府	10
兵庫県	3
岡山県	2
広島県	7
山口県	1
香川県	2
高知県	1
福岡県	10
熊本県	2
大分県	2
宮城県	1
沖縄県	2
合計	211

※日本大学卒の会員は東海大学大学院を修了

※鹿児島大学卒の会員は東海大学大学院を修了（博士）

（久一博世 記）

<連絡事項>

1. 会員の皆様へのお願い

東海大学望星技術士会は、入会金や年会費を現在まで徴収していません。活動費用は、行事ごとの必要費用を参加費として負担いた残金や皆様からの寄付金を運用しています。そこで次のお願いがあります。

(1) メールアドレス変更の場合は必ず連絡下さい。

当会では郵送費や会誌印刷費の予算はありませんので、メールアドレスを持っていることが情報交流のための一つの条件です。

メールアドレスを変える場合は大学事務局 喜友名氏にご連絡をお願いいたします。

kiyuna@tsc.u-tokai.ac.jp

(2) 東海大学出身の技術士を紹介して下さい

現在の会員数は令和3年末で210名です。東海大学卒の技術士をご存じなら、是非入会をお勧めくださるようお願いいたします。会員が多ければ、会のプレゼンスが向上します。また活動項目も増やせます。

(3) 入会方法ならびに問い合わせ先

事務局アドレスに「入会希望」をご連絡下さい。望星技術士会ホームページのリンク集のページで「入会申込」をクリックすると必要記載事項が出ますので、記載して頂きメールで事務局に送って下さい。後ほど事務局より、入会にあたり必要な情報をお送りします。

東海大学望星技術士会のホームページ
<http://engineer.bousei.u-tokai.ac.jp/>

(4) 行事等への参加のお願い

講演会や見学会などの行事には会員以外の方にも参加いただけるようにしています。特に、講演会では学生の参加も可能です。同僚や同窓の方などに、開催通知を転送していただければ幸いです。最近リモート形式での講演会も開催していますので、全国から参加可能となりました。

(5) ご意見やご提案をお待ちします

「こんなイベントをやって欲しい」などのご提案や、改善すべき点などのご意見は是非事務局アドレスまでお送り下さい。また、遠方の方もどしどしご意見や近

況をお寄せいただければ幸いです。

2. 2021年度寄付金状況報告

2021年度(5月10日~2月28日)の本会へご寄付いただいた方のお名前と寄付金総額を以下の通り報告致します。なお、会員外の方は、No.1 市川光昭様(いであ副社長)です。また、匿名希望の方が2名みえましたが、お名前のみ会報に掲載するということで了解を得ています。寄付していただいた方を以下に示します。本会の活動へご理解・ご協力をいただき、感謝申し上げます。

2021年度寄付金総額 171,000円(19名)

寄付していただいた人(五十音順、敬称略)：

市川光昭、糸井秀実、今村 均、太田芳雄、笠原 勉、齋藤 寛、桜井裕一、谷 徳造、中村憲一、名越隆雄、久一博世、平野 滋、藤田孝康、星崎 紀一、村越誠、山本真之、吉田倫夫、和田洋六、綿貫 啓 以上

3. 望星技術士会の今後の予定

令和4年度の総会は、下記の日程及び内容を予定しております。詳細は、改めて会員の皆様へ連絡を差し上げます。

日程；令和4年7月9日(土) 14:00

場所；東海大学高輪キャンパス(会場)

ZoomによるWeb方式併用

特別講演；東海大学札幌キャンパスの先生の講演
Web形式で実施

<編集後記>

- ◆学生への講義が増え、本会主催の講演会も実施されました。活発化した活動を取りまとめた、内容の濃い会報と思います（庄司）
- ◆望星技術士会の誕生秘話（？）をお聞きすることができました！ いただいたバトンを次の世代に繋げていきたいです（畑）
- ◆コロナ禍でも読み応えのある会報が出来て嬉しい限りです。多くの方から「会員からの便り」をいただけますように！（星崎）
- ◆慣れない編集、ご迷惑をおかけしました。引き続きよろしくお願ひします。（圓山）
- ◆年々会報が厚くなり、6号は30ページを超えました。現役の学生が興味を持つ会報にしていきたいと思ひます（綿貫）

発行元：東海大学望星技術士会

ホームページ・アドレス

<http://engineer.bousei.u-tokai.ac.jp/>

アクセス用 QR コード

